



PROFXv3+ SERIES

MULTI-CHANNEL ANALOG MIXERS WITH ENHANCED FX,
USB RECORDING MODES, AND BLUETOOTH™

OWNER'S MANUAL



www.mackie.com



取扱説明書 Ver1.00



株式会社 サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3

TEL: 0476(89)1111 FAX: 0476(89)2222

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

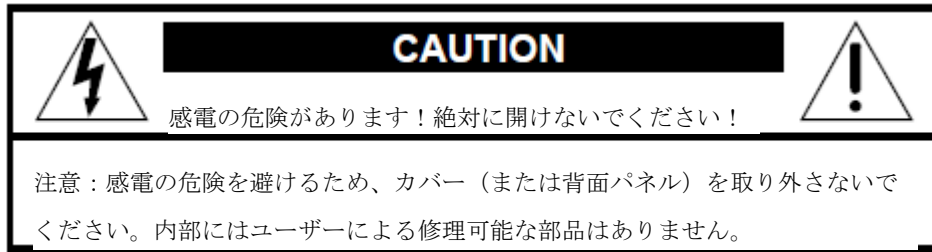
目次

安全に関する注意事項.....	3
1. はじめに	6
主な特徴	7
重要な注意事項	7
本ガイドについて	8
クイック・スタートガイド	9
2. リアパネル	10
3. トップパネル	13
付録 A：サービス情報.....	68
付録 B：技術情報.....	72
仕様	72
付録 C：USB 3/4 リターンの設定	81

安全に関する注意事項

1. この説明書をお読みいただき、大切に保管してください。
2. すべての警告と指示に従ってください。
3. 水の近くで使用しないでください。
4. クリーニングは乾いた布のみを使用してください。
5. 通気口をふさがないでください。
製造元の指示に従って設置してください。
6. 十分な換気のために、本機の周囲には **5 cm** 以上のスペースを確保してください。
新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどで、通気口をふさがないようにしてください。
7. ラジエーター、ヒーター、ストーブ、その他の熱を発生する機器（アンプなど）の近くには設置しないでください。
8. ろうそくなどの裸火を、本機の上に置かないでください。
9. 極性プラグまたは接地タイプのプラグを改造しないでください。極性プラグは、2本の刃のうち1本が他方よりも幅が広がっています。接地タイプのプラグには、2本の刃と3本目の接地用ピンがあります。幅の広い刃または3本目のピンは、安全のために設けられています。付属のプラグがコンセントに合わない場合は、電気工事技術者に、コンセントの交換を依頼してください。
10. 電源プラグ、コンセント、および装置から出ているケーブルを踏んだり挟んだりしないように保護してください。
11. メーカーが指定した付属品/アクセサリのみを使用してください。
12. 製造元が指定したカート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルのみを使用してください。カートを使用する場合は、カートと本機器の組み合わせを移動する際に、転倒による怪我に注意してください。
13. 雷が激しい場合、または長期間使用しない場合は、本機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。
14. 修理は、資格のあるサービス担当者に依頼してください。電源コードやプラグが損傷している、液体がこぼれた、異物が装置内に落ち込んだ、装置が雨や湿気にさらされた、正常に動作しない、落下したなどの損傷がある場合は、修理が必要です。
15. 水滴や水しぶきが落ちない場所に設置してください。また、花瓶やグラスなど、液体がこぼれる可能性のあるものは、装置の上に置かないでください。
16. 壁コンセントや延長コードに過負荷をかけないでください。火災や感電の危険があります。
17. 3番目の接地ピンは必ずアースに接続してください。





製品の筐体内に絶縁されていない「危険な電圧」が存在します。



本製品に付属の取扱説明書に、重要な操作および保守（修理）に関する指示が記載されています。

18. この装置には、ロッカースタイルの AC 電源スイッチが装備されています。このスイッチは背面パネルにあり、ユーザーが簡単に操作できるように設置してください。
19. メインブレーカーを切断装置として使用してください。切断装置は、簡単に操作できる状態にしておく必要があります。
20. 本装置は、0-40°C の環境で使用してください。
21. 放射部と身体の間には 20 cm 以上の距離を確保して設置し、使用してください。
22. 非常に高い騒音レベルにさらされると、永久的な難聴になるおそれがあります。騒音による聴力低下の起こりやすさは個人によって大きく異なりますが、ほぼすべての人が、一定期間、十分に強い騒音にさらされると、ある程度の聴力低下を起こします。米国政府の職業安全衛生局（OSHA）は、以下の表に示す許容騒音レベルを規定しています。OSHA によると、これらの許容値を超える騒音にさらされると、何らかの聴力障害が生じるおそれがあります。高音圧レベルを発生させる可能性のある機器に暴露されるすべての人は、機器の操作中は聴覚保護具の使用が推奨されます。機器の操作中は、耳栓または耳道内または耳に装着する保護具を着用し、ここに設定された制限を超える暴露による永久的な聴力損失を防ぐ必要があります。

1日当たりの時間 (時間)	音圧レベル (dBA、 Slow 特性)	代表例
8	90	小規模なクラブでのデュオ演奏
6	92	
4	95	地下鉄
3	97	
2	100	非常に大音量のクラシック音楽
1.5	102	
1	105	上司が締め切りのことで怒鳴る声
0.5	110	
0.25 以下	115	ロックコンサートで最も音量が大きい部分

警告

火災や感電の危険を防止するため、この装置を雨や湿気にさらさないでください。



この製品の正しい廃棄方法：この記号は、各国の法律に基づき、この製品を家庭ごみとして廃棄してはならないかを示しています。



この製品は、電気電子機器のリサイクルを扱う認定収集場所に引き渡してください。このタイプの廃棄物を不適切に処理すると、機器に含まれる有害物質により、環境や人間の健康に悪影響を及ぼすおそれがあります。

この製品の正しい廃棄にご協力いただくと、天然資源の有効活用に貢献できます。廃棄物の回収場所に関する詳細については、お住まいの地域の市役所、廃棄物処理当局、またはご家庭のごみ処理サービスにお問い合わせください。

1. はじめに

この度は、Mackie ProFXv3+シリーズをご購入いただき、誠にありがとうございます。

Mackie ProFXv3+は、スタジオ品質のレコーディングやライブストリーミングを実現するための強力な機能を備えた、プロフェッショナル仕様のアナログミキサー兼 USB-C オーディオインターフェースです。

高い評価を得ている Onyx プリアンプ、チャンネル EQ、アナログコンプレッサーにより、演奏やパフォーマンスを高音質で収録できます。

さらに進化した GigFX+エフェクトでサウンドをより魅力的に仕上げられるほか、フルカラーディスプレイを使って、その場でプリセットを編集・保存できます。

レコーディングモードを切り替えて、エフェクトをかけないドライ音、または FX を含む音声を録音できます。また、ループバックモードを使用すれば、フィードバックを起こさず、ゲーム配信やバックিংトラックに合わせた演奏をストリーミングできます。

Bluetooth®専用チャンネルを使用して、電話からポッドキャストのゲストを参加させられます。

優れた接続性、アナログならではの温かみのあるサウンド、さらに進化した FX エンジンを備えた Mackie ProFXv3+は、スタジオの中核を担う理想的なミキサーです。

主な特徴

- 最大 60 dB のゲインと超低ノイズ性能を備えた Onyx マイクプリアンプ×2 [ProFX6v3+]
- 最大 60 dB のゲインと超低ノイズ性能を備えた Onyx マイクプリアンプ×4 [ProFX10v3+]
- 最大 60 dB のゲインと超低ノイズ性能を備えた Onyx マイクプリアンプ×7 [ProFX12v3+]
- 高解像度 GigFX+™エフェクトエンジン
- エフェクトプリセットの編集・保存が可能なフルカラーLCD ディスプレイ
- 24 ビット/192 kHz 対応、2 入力/4 出力 USB-C オーディオインターフェース
- 3 つのレコーディングモード : Standard、Loopback、Interface
- 音楽再生や通話音声の取り込みに対応する双方向 Bluetooth®
- チャンネル 1、2 に 2 バンド EQ を搭載 [ProFX6v3+]
- 全チャンネルに 3 バンド EQ を搭載 [ProFX10v3+、ProFX12v3+]
- チャンネル 1、2 にワンボタンコンプレッサーを搭載 [ProFX6v3+]
- チャンネル 1、2 にワンノブコンプレッサーを搭載 [ProFX10v3+]
- チャンネル 1～4 にワンノブコンプレッサーを搭載 [ProFX12v3+]
- Hi-Z スイッチにより、楽器を直接接続可能
- すべてのマイクチャンネルに 100 Hz ローカットフィルターと 48 V ファンタム電源を搭載
- ステレオ 1/8 インチ入力
- FX、モニター、サブグループ用の独立したバスを搭載 [ProFX12v3+]

重要な注意事項

- 大音量の音楽を長時間聴かないでください。
- 聴覚の保護については、2 ページの「安全に関する注意事項」を参照してください。
- 一般的な目安として、電源を入れる際は、最初に ProFXv3+、次にサブウーファー、最後にスピーカーの順で電源を入れてください。電源を切る際は、最初にスピーカー、次にサブウーファー、最後に ProFXv3+の順で電源を切ってください。この手順により、前段の機器が発生する電源投入時/切断時

の衝撃音やその他のノイズが、スピーカーから出力される可能性を低減できます。

- 輸送用の箱と梱包材は保管しておいてください。後日必要になる場合があります。
- 購入時のレシートは安全な場所に保管してください。

本ガイドについて

本ガイドは、必要な情報を簡単に参照できるよう、各項目をできるだけ簡潔かつ分かりやすくまとめています。コンソールの使用方法を理解するために、ガイド全体を最初から最後まで読む必要はありません。

「百聞は一見にしかず」といわれるように、本文の内容をより分かりやすくするため、ガイド全体にイラストやスクリーンショットなどの画像を掲載しています。



このアイコンは、極めて重要な情報や本製品特有の情報を示します。必ず内容を確認し、覚えておいてください。



顕微鏡のイラストが付いた箇所では、より詳しい情報を確認できます。機能の説明や実用的なヒントを掲載しています。



ノートアイコンの横に表示される文章には、**ProFXv3+**の使用に関する特定の機能や操作について、特に注意すべき情報が記載されています。必ず確認してください。

クイック・スタートガイド

以下の手順に従って、ProFXv3+をすばやくセットアップできます。詳細は、2 章以降に掲載されています。

1. 3 ページの「安全上の重要な注意事項」をよく読み、内容を理解してください。
2. チャンネル **EQ** ノブと **PAN** ノブ以外のすべてのノブを最小位置まで下げ、すべてのフェーダーを一番下まで下げます。
3. すべてのチャンネル **EQ** ノブと **PAN** ノブをセンタークリック位置に合わせます
4. すべてのスイッチをオフにします。
5. **MAIN OUT** からパワードスピーカーへケーブルを接続します（パッシブスピーカーを使用する場合は、スピーカーに接続したパワーアンプへ接続します）。
6. 電源コードをミキサーの電源端子に確実に差し込み、もう一方のプラグを接地された **AC** コンセントに接続します。使用できる電源電圧は、電源端子付近の表示を確認してください。
7. ミキサーの電源を入れます。
8. パワードスピーカー（またはパワーアンプ）の電源を入れます。
9. 以下のような信号ソースをミキサーに接続します。
 - マイクを **MIC** 入力に接続します（必要に応じてファンタム電源をオンにします）。
 - アクティブピックアップを搭載したアコースティックギターなど、楽器レベルの信号ソースを **INST** 入力に接続します。
 - キーボード、ドラムマシン、**CD** プレーヤーなど、ラインレベルの信号ソースを **LINE** 入力に接続します。
 - スマートフォンを **Bluetooth** でペアリングして接続します。
10. 入力機器の音量が、通常使用するときと同じレベルになっているか確認します。
11. チャンネルの **L-R** アサインスイッチ（ProFX12v3+）をオンにし、そのチャンネルのフェーダーを「**U**」（ユニティゲイン）の位置まで上げます。
12. **MAIN** フェーダーをゆっくり上げ、適切なリスニング音量に調整します。
13. その他のチャンネルについても、手順 9～11 を繰り返します。

2. リアパネル

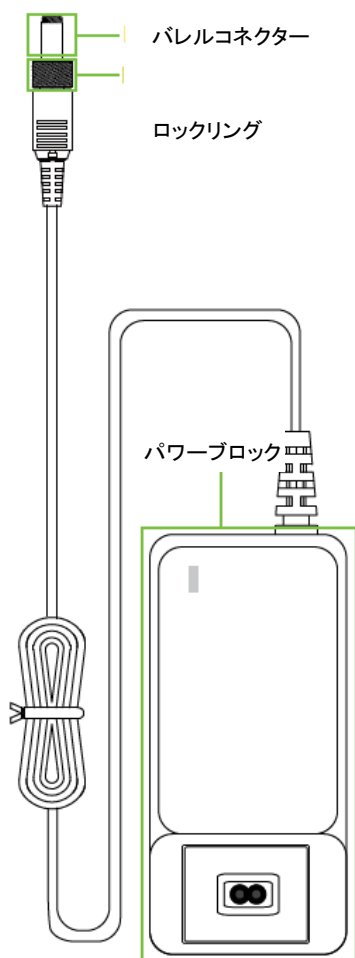


ProFX6v3+ and ProFX10v3+



ProFX12v3+

各 ProFXv3+ ミキサーのトップパネルでは、さまざまな機能を操作できます。ただし、電源が供給されなければ何も動作しないため、まずは電源について説明します。各 ProFXv3+ ミキサーのリアパネルには、電源コネクタ、電源スイッチ、コンピューター接続用の USB-C ポートが装備されています。最初に電源コネクタと電源スイッチ、続いて USB-C ポートについて説明します。



バレルコネクタ

ロックリング

パワーブロック

電源コネクタ[ProFX6v3+、ProFX10v3+]

ProFX6v3+および ProFX10v3+には、AC100V～240V、50～60Hz に対応するユニバーサル外部電源が付属しています。電圧切替スイッチは必要ありません。世界中のほぼどこでも使用できるため、「Planet Earth (地球対応)」電源と呼んでいます。従来型の電源に比べて電圧降下の影響を受けにくく、電磁的な絶縁性に優れ、AC ラインノイズに対する保護性能も向上しています。

ProFXv3+ミキサーには、外部 12V DC 電源（別名「パワーブロック」）と電源コードが付属しています。パワーブロックに接続されているコードの先端には、ロック式バレルコネクタがあります。このコネクタを ProFXv3+ミキサーの電源端子に差し込み、外側のリングを時計回りに回してロックします。締めすぎないようにしてください。抵抗を感じるところまで締めたら、それ以上回さないでください。

次に、電源コードのメス側をパワーブロックに接続し、オス側を接地された電源コンセントに差し込みます。パワーブロックの LED が緑色に点灯すれば、正常に接続されています（ProFXv3+ミキサー本体の電源がオンかオフにか

かわらず点灯します）。



電源プラグのアースピンを取り外すと危険です。絶対に取り外さないでください！また、Power Block や電源コードから部品を取り外したり、何かを追加したりしないでください。

電源コネクタ[ProFX12v3+]

標準的な 3 極 IEC 電源コネクタです。ProFX12v3+に付属の着脱式電源コードを電源コネクタに接続し、もう一方の端を AC 電源コンセントに差し込みます。



リアパネル（IEC 電源コネクタ付近）に表示されている AC 電源の仕様と、使用する AC 電源が一致しているかを確認してください。

電源プラグのアースピンを取り外すと危険です。絶対に取り外さないでください！

電源スイッチ

電源コネクタの隣に電源スイッチがあります。このロッカースイッチの上側を押すと ProFXv3+ミキサーの電源がオンになり、下側を押すとオフになります。



基本的には、最初に ProFXv3+の電源を入れ、その後に外部パワーアンプやパワーードスピーカーの電源を入れてください。電源を切るときは、ProFXv3+を最後にオフにします。この順序で操作して、PA システムで発生する電源オン／オフ時のポップノイズを抑えられます。

USB-C コンピューター端子

コンピューターを使用して ProFXv3+ミキサーとの間でオーディオを送受信できる、2 入力／4 出力の USB オーディオインターフェースです。

USB ケーブルの USB-C 側を ProFXv3+ミキサーに接続し、USB-A 側をコンピューターの USB ポートに接続します。



重要：コンピューターの「設定」で、オーディオの入力デバイスと出力デバイスを「ProFXv3+」に変更してください。



ProFXv3+の USB 接続はオーディオ専用です。USB から電源は供給できません。

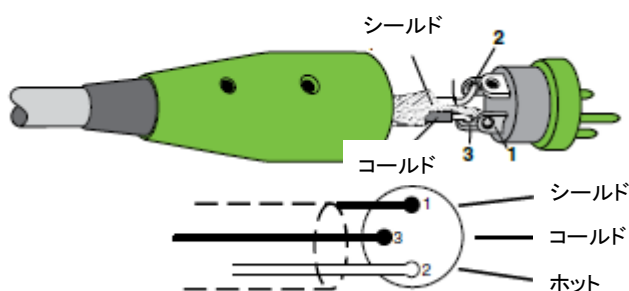
3. トップパネル

各 ProFXv3+ミキサーのトップパネルには、ノブ、ボタン、フェーダー、端子、画面など、多数の機能が装備されています。ここでは、上から下、左から右の順に、それぞれの機能を説明します。

XLR／1/4 インチコンボ入力端子



最初の 2 つの入力チャンネルは、XLR コネクタを使用してバランスのマイクレベル信号またはラインレベル信号を入力できます。配線は、AES（Audio Engineering Society）が規定する規格に準拠しています。



XLR バランス配線：

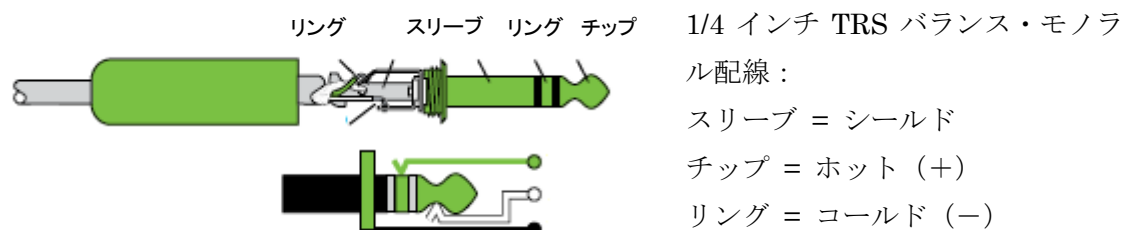
Pin 1 = シールド（グラウンド）

Pin 2 = Positive（+／ホット）

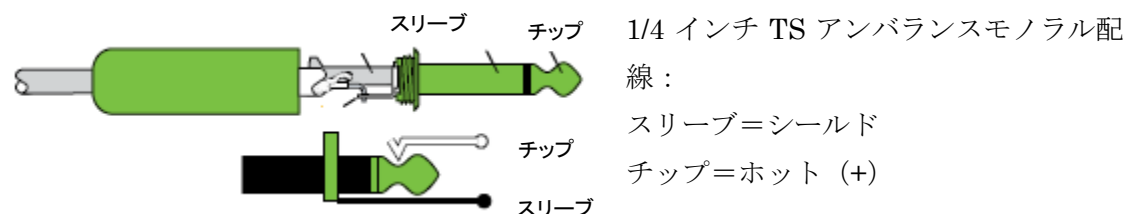
Pin 3 = Negative（－／コールド）

XLR コネクタによるバランスのマイクレベル信号またはラインレベル信号に加え、バランスまたはアンバランスのソースから 1/4 インチのラインレベル信号も入力できます。

バランス信号を入力する場合は、1/4 インチ TRS フォンプラグを使用してください。「TRS」は Tip、Ring、Sleeve の略で、ステレオの 1/4 インチフォンプラグにある 3 つの接点を示します。TRS 端子およびプラグは、バランス信号やステレオヘッドホンに使用されます。



アンバランス信号を入力する場合は、1/4 インチのモノラル TS フォンプラグを使用してください。



XLR マイク入力端子 (ProFX10v3+ および ProFX12v3+)



ほぼすべての音源から、バランス接続のマイクレベル信号またはラインレベル信号を入力できる XLR メス端子です。これらのマイクプリアンプは高い音質と十分なヘッドルームを備え、市販の単体マイクプリアンプに匹敵する性能を発揮します。また、ハムやノイズの除去性能にも優れています。

プロ仕様のリボンマイク、ダイナミックマイク、コンデンサーマイクのいずれを接続しても、優れた音質が得られます。マイク/ライン入力は、さまざまなレベルの信号を過負荷なく処理できます。配線図については、前のページを参照してください。



アンプの出力を ProFXv3+ミキサーの入力端子に絶対に直接接続しないでください。入力回路が損傷するおそれがあります。



上の図に示すように、ProFX10v3+には 2 基の XLR マイク入力端子（チャンネル 3 および 4）があり、ProFX12v3+には 9 基の XLR マイク入力端子（チャンネル 3、4、5/6、7/8、9/10）があります。ProFX6v3+には XLR マイク入力専用端子はありません（最初の 2 チャンネルにあるコンボ入力端子を除く）。

1/4 インチ・ライン入力端子(ProFX10v3+および ProFX12v3+)



ProFX10v3+



ProFX12v3+

この 1/4 インチ端子は、マイクプリアンプと同じ回路を使用しています（ファンタム電源を除く）。ほぼすべての信号レベルにおいて、バランスまたはアンバランスの音源を入力できます。これらの端子には、さまざまな信号を入力できます。

バランスラインを接続する場合は、1/4 インチ TRS（Tip-Ring-Sleeve）プラグを使用します。「TRS」は Tip-Ring-Sleeve の略で、ステレオ 1/4 インチプラグまたはバランス仕様のフォン端子／プラグにある 3 つの接点を表します。配線図については、前のページを参照してください。

アンプの出力を ProFXv3+ミキサーの入力端子に絶対に直接接続しないでください。入力回路が損傷するおそれがあります。



上の図に示すように、ProFX10v3+と ProFX12v3+には、それぞれ 2 基の 1/4 インチ・ライン入力端子（チャンネル 3 および 4）があります。ProFX6v3+には 1/4 インチ入力専用端子はありません（最初の 2 チャンネルにあるコンボ入力端子を除く）。



1/4 インチステレオライン入力端子



ステレオライン入力端子は、1/4 インチ TRS バランス信号または 1/4 インチ TS アンバランス信号に対応しています。

ラインレベル出力を備えた楽器、エフェクター、CD プレーヤーなどを接続できます。

モノラル音源を接続する場合は、左側 (MONO) の入力端子を使用してください。モノラル信号がメインミックスの左右両チャンネルに送られます。

バランスラインを接続する場合は、1/4 インチ TRS (Tip-Ring-Sleeve) フォン端子を使用してください。アンバランスラインを接続する場合は、1/4 インチモノラル (TS) フォン端子を使用してください。配線図については、2 ページ前を参照してください。

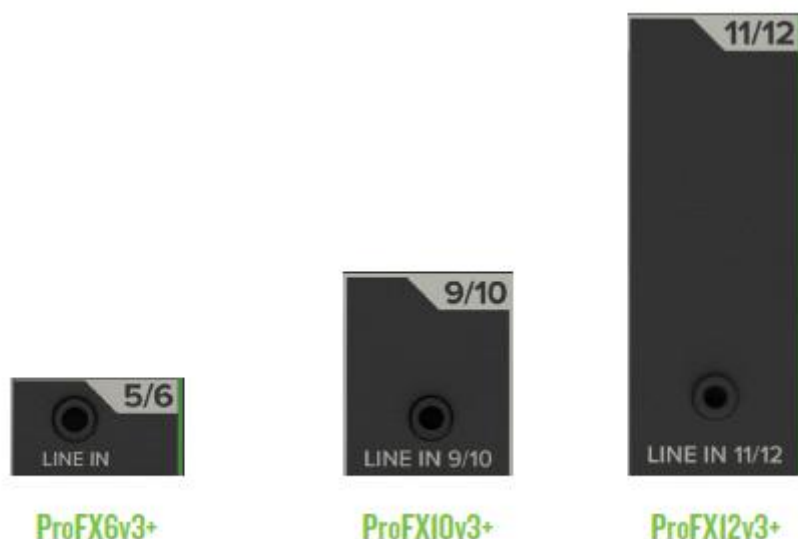


パワーアンプの出力を ProFXv3+ミキサーの入力端子に直接接続しないでください。入力回路が損傷するおそれがあります。



上図のとおり、ProFX6v3+には 1/4 インチステレオライン入力端子が 1 系統 (チャンネル 3/4)、ProFX10v3+には 2 系統 (チャンネル 5/6 および 7/8)、ProFX12v3+には 3 系統 (チャンネル 5/6、7/8、および 9/10) 装備されています。

1/8 インチステレオライン入力端子



この 1/8 インチステレオ入力端子には、スマートフォン、タブレット、MP3 プレーヤー、CD プレーヤーなどの信号源から、ステレオまたはモノラルのラインレベル信号を入力できます。

AES（Audio Engineering Society）が定める規格に従い、次のように配線されています。

ステレオ 1/8 インチ TRS

スリーブ＝シールド（グラウンド）

チップ＝左チャンネル

リング＝右チャンネル



ProFXv3+ミキサーで音量を調整できますが、接続機器側の音量も上げておく必要があります。



上図のとおり、すべての ProFXv3+ミキサーには、1 系統の 1/8 インチステレオライン入力端子が装備されています。ProFX6v3+ではステレオチャンネル 5/6、ProFX10v3+では 9/10、ProFX12v3+では 11/12 に割り当てられています。

Line/Hi-Z スイッチ[チャンネル 1、2]

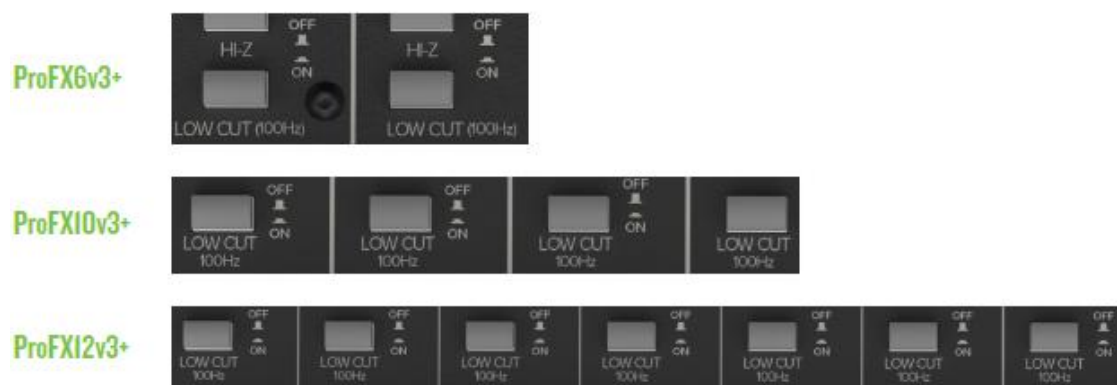


DI ボックスを使用せず、ギターやベースをミキサーに直接接続する場合は、最初にこのスイッチを押し、楽器の出力をチャンネルの 1/4 インチ TRS 入力端子に接続します。入力インピーダンスが直接接続用に最適化され、高域の忠実度が確保されます。

スイッチを離れた状態では、チャンネルの 1/4 インチ TRS 入力端子は、ほかのモノラルライン入力端子と同様のライン入力として機能します。

ほかのチャンネルにギターなどの楽器を接続する場合は、外部 DI ボックスを使用する必要があります。DI ボックスを使用しない場合、またはこのスイッチを押していない場合、ギターの音がこもり、不明瞭になる場合があります。

ローカットスイッチ



マイク入力を備えたすべてのチャンネルには、ローカットスイッチが装備されています。ローカットはハイパスフィルターとも呼ばれ、100 Hz 未満の低域を 18 dB/oct の傾斜でカットします。

キックドラム、ベースギター、低音を重視したシンセサイザーの音色を除き、マイクを使用するすべての用途でローカットを有効にすることを推奨します。これらを除けば、超低域には必要な音がほとんど含まれていません。不要な超低域をカットすると、必要な低音がより明瞭で引き締まった音になります。また、ライブ環境でのフィードバック発生を抑え、アンプの消費電力軽減にも役立ちます。



ローカットは、ライブ演奏時の調整範囲を広げる機能としても活用できます。ローカットを有効にすると、ボーカルの低域 **EQ** を安全に調整できます。低域シェルビング **EQ** を加えると、声がより豊かになる場合があります。ただし、低域 **EQ** を加えると、ステージの振動音、マイクを扱う際の衝撃音、息によるポップノイズなどの超低域成分も増幅されます。ローカットを適用すると、これらの問題を解消できるため、ウーファーを損傷するリスクを抑えながら低域 **EQ** を加えられます。



上図のとおり、ProFX6v3+には 2 個、ProFX10v3+には 4 個、ProFX12v3+には 7 個のローカットスイッチが装備されています。

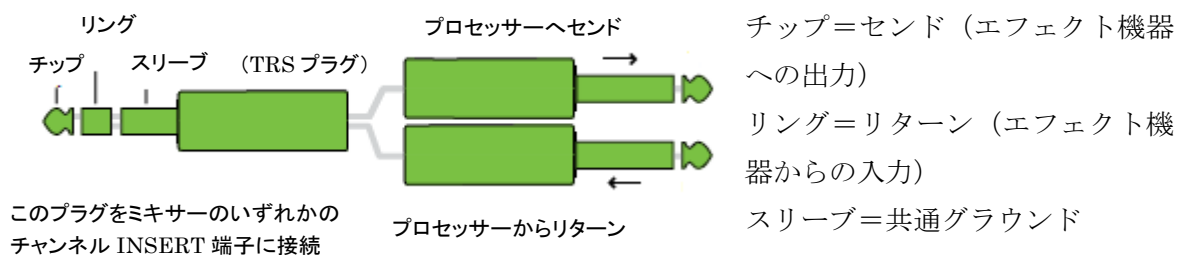
1/4 インチ INSERT 端子[ProFX10v3+、ProFX12v3+]



これらのアンバランス 1/4 インチ端子は、コンプレッサー、イコライザー、ディエッサー、フィルターなどのエフェクトプロセッサを直列接続するために使用します。

インサートポイントは、ゲインコントロールおよびローカットフィルターの後段、チャンネル **EQ** およびレベルコントロールの前段にあります。チャンネル信号は **INSERT** 端子から外部機器へ送られ、処理後、同じ **INSERT** 端子に戻ります。

この接続には、下図のように配線された標準インサートケーブルが必要です。

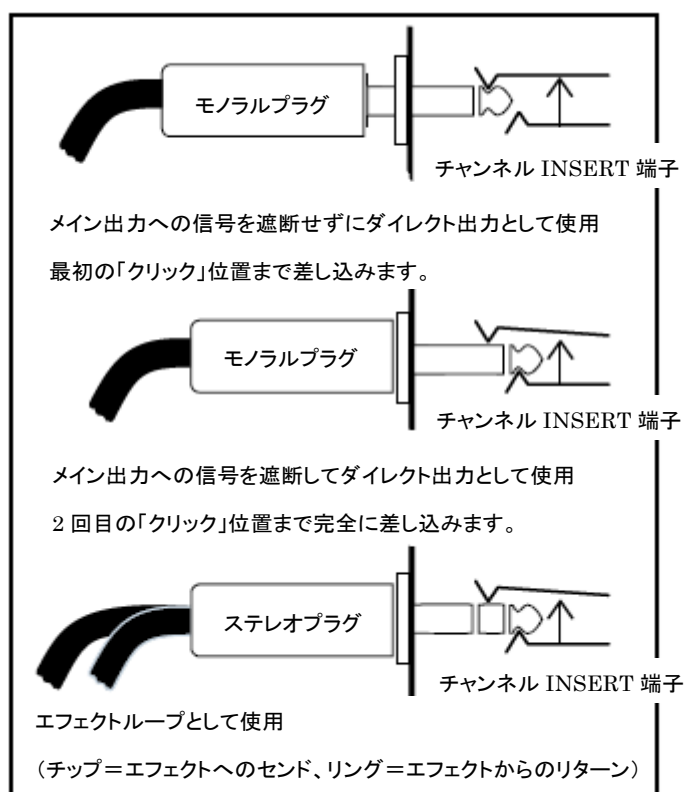


INSERT 端子は、チャンネルのダイレクト出力（ゲイン調整後、EQ 処理前）としても使用できます。モノラル 1/4 インチ TS プラグを INSERT 端子の最初のクリック位置まで差し込むと、端子内部のスイッチは作動せず、インサート回路も切断されません。そのため、チャンネル信号はミキサー内部を通常どおり流れたまま、外部へ取り出せます。

1/4 インチ TS プラグを 2 回目のクリック位置まで完全に差し込むと、端子内部のスイッチが作動してダイレクト出力となり、そのチャンネルの信号経路は遮断されます。下図を参照してください。



ミキサーから取り出す信号に過大な負荷をかけたり、短絡させたりしないでください。内部信号に影響を与えます。



上図のとおり、ProFX10v3+と ProFX12v3+には、それぞれ 4 系統の 1/4 インチ INSERT 端子（チャンネル 1～4）が装備されています。
ProFX6v3+には 1/4 インチ INSERT 端子はありません。

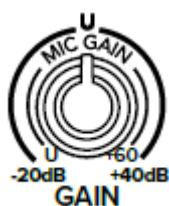
ゲインノブとレベル設定 LED

「U」はユニティゲイン

ProFXv3+シリーズのミキサーでは、多くのレベルコントロールに「U」記号が表示されています。「U」は「ユニティゲイン」を表し、信号レベルを増減しない設定を意味します。各コントロールの目盛はデシベル（dB）で表示されているため、設定を変更する際に信号レベルの変化量を確認できます。



まだお読みでない場合は、8 ページの「はじめに」を参照してください。ゲインを適切に設定すると、プリアンプのゲインが高すぎて歪みが発生したり、低すぎて繊細な小音量部分がバックグラウンドノイズに埋もれたりするのを防止できます。



ゲインノブはレベル設定 LED と連動し、マイク入力とライン入力の入力感度を調整します。外部から入力された信号を、各チャンネル内部の最適な動作レベルに調整できます。

モノラルチャンネル（マイク入力とモノラルライン入力を備えたチャンネル）では、ゲインノブでマイク入力とライン入力の入力感度を調整します。

マイクの XLR 端子から信号を入力する場合、ゲインノブを最小にするとゲインは 0 dB、最大にすると 60 dB になります。

1/4 インチモノラルライン入力では、ゲインノブを最小にすると 20 dB 減衰し、最大にすると 40 dB 増幅します。12 時の位置にある「U」がユニティゲインです。

この 20 dB の減衰範囲は、レベルの高い信号を入力する場合や、EQ でゲインを加える場合、またはその両方を行う場合に便利です。この「仮想パッド」による減衰がないと、チャンネルがクリップしやすくなります。



ハイブリッドチャンネル(マイク入力とステレオライン入力を備えたチャンネル)では、ゲインコントロールはマイク入力にのみ作用します。

ハイブリッドチャンネル:

- ProFX12v3+ : チャンネル 5/6、7/8、9/10



ハイブリッドチャンネルを備えているのは ProFX12v3+のみです。



1/8 インチステレオ入力チャンネルのゲインコントロールは、20 dB の増幅および 20 dB の減衰が可能です。

1/8 インチステレオチャンネル:

- ProFX12v3+ : チャンネル 11/12



すべての ProFXv3+ミキサーには 1 系統の 1/8 インチステレオライン入力端子が装備されていますが、この入力用のゲインノブを備えているのは ProFX12v3+のみです。

1/8 インチステレオ入力のゲインノブを除き、各ゲインノブの横にはレベル設定 LED があります。この LED をゲインコントロールと併用し、各入力ソースに合わせてチャンネルプリアンプのゲインを最適に設定します。1 つ以上のチャンネルで歪みが発生している場合は、レベル設定 LED を確認してください。LED が常時点灯している場合は、ゲインを下げてください。

コンプレッサーノブ



各 ProFXv3+ ミキサーの以下のチャンネルには、可変スレッシュホールドのインラインコンプレッサー回路が搭載されています。

- ProFX6v3+ : コンプレッサー ON/OFF スイッチ
- ProFX10v3+ : チャンネル 1~2
- ProFX12v3+ : チャンネル 1~4

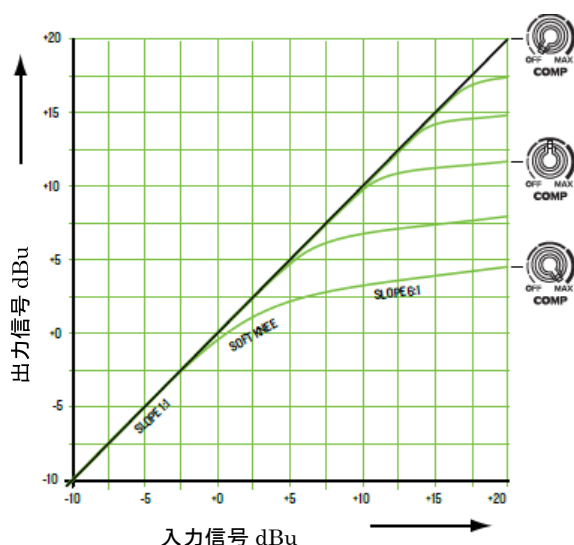
この機能は、ボーカルやスネアドラムなどのコンプレッションに効果的です。ボーカル用マイクやドラム用マイクは、ほかのチャンネルではなく、これらのチャンネルに接続することを推奨します。

入力信号が、このノブで設定したスレッシュホールドレベルを超えると、信号レベルが自動的に圧縮されます。これによりダイナミックレンジが狭まり、入力信号の過大レベルによる歪みの発生を抑えます。



ダイナミックレンジとは、楽曲内の最も小さい音と最も大きい音のレベル差です。コンプレッサーはダイナミックレンジを「圧縮」し、信号全体の音量をより安定させます。ボーカルなどの音源をミックス内になじませやすくするため、ライブサウンドに非常に有効です。

コンプレッションレシオは約 6:1 に固定され、ソフトニー特性を採用しています。スレッシュホールドは、OFF（コンプレッションなし）から 0 dBu（最大）まで、ノブを時計回りに回して調整できます。



例として、スレッシュホールドを最大に設定した場合を考えます。入力信号が 0 dBu になると、スレッシュホールドに達します。信号がスレッシュホールドを超えると、6:1 のレシオで圧縮されます。つまり、入力信号が 6 dB 増加しても、実際の出力レベルは 1 dB しか増加しません。出力信号を圧縮すると、不適切なマイク操作（そうではないと思いますが）、突発的なポップノイズや衝撃音、ヘヴィメタルの激しい叫び声などによる歪みや過大入力からシステムを保護できます。ソフトニーとは、スレッシュ

ホールド付近からコンプレッションレシオが徐々に 6:1 まで変化する特性です。急激に 6:1 へ切り替わらないため、ハードニーコンプレッションのような耳障りな変化を抑えられ、聴感上も自然です。

左のグラフは、コンプレッサーへの入力信号レベルと、コンプレッサーからの出力信号レベルの関係を示しています。

コンプレッサーが OFF の場合は、入力レベルと出力レベルが同じになります。たとえば、入力信号レベルが +5 dBu の場合、出力信号レベルも +5 dBu になります。左下から右上へ伸びる対角線は $x=y$ 、つまり入力=出力を表します。

コンプレッションを最大にすると、スレッシュホールドは 0 dBu に設定され、入出力の関係はグラフの下側の曲線で示されます。入力が -5 dBu の場合はスレッシュホールド未満のため、出力も -5 dBu です。入力が 0 dBu に近づくと、出力は 0 dBu をわずかに下回ります。入力が +5 dBu の場合、出力は約 +2 dBu です。入力が +10 dBu の場合、出力は約 +3 dBu になります。 $x=y$ の対角線と、コンプレッションレシオ 6:1 の傾斜との間を滑らかにつなぐ曲線が、ソフトニー特性を示しています。

その他の緑色の曲線は、コンプレッサーノブの中間位置を示しています。位置が高くなるほどスレッシュホールドが高くなり、コンプレッションがかかり始める入力レベルも高くなります。外部コンプレッサーには通常、コンプレッション比、スレッシュホールド、ソフトニー／ハードニー、アタックタイム、リリースタイムなどのコントロールがあります。アタックタイムは、入力がスレッシュホールドを超えてからコンプレッサーが動作するまでの速さに影響し、リリースタイムは、入力がスレッシュホールドを下回ってからコンプレッションが解除されるまでの速さに影響します。このコンプレッサーでは、最高の総合性能が得られるように、これらのパラメーターが最適に設定されています。

演奏中に歪みやオーバーロードを発生させず、音量の強弱を十分に保てるよう、スレッシュホールドを慎重に調整してください。練習中に声量の大きな箇所や高音域を実際に歌い、必要に応じてコンプレッションを調整してください。



ProFX10v3+および ProFX12v3+のコンプレッサーはスレッシュホールドを可変調整できますが、ProFX6v3+にはシンプルなオン／オフスイッチが搭載されています。

チャンネルイコライザー(EQ)



ProFX6v3+



ProFX10v3+ & ProFX12v3+

ProFX10v3+および ProFX12v3+ミキサーには、シェルビング HI、ピーキング MID、シェルビング LOW で構成される 3 バンド EQ が搭載されています。ProFX6v3+には、シェルビング HI および LOW の EQ ノブが搭載されています。3 バンドイコライザーは、80 Hz の LOW シェルビング、2.5 kHz の MID ピーキング、12 kHz の HI シェルビングで構成されています。

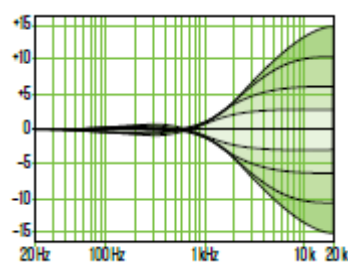
シェルビングとは、指定した周波数より上または下にあるすべての周波数をブーストまたはカットする特性です。たとえば LOW EQ は、80 Hz 未満の低域をブーストし、可聴帯域の最低音まで効果が続きます。ピーキングでは、中心周波数の周辺が「山」のような形状になります。



EQ をかけすぎると、音のバランスが大きく崩れる場合があります。各イコライザー回路のブースト／カット量を大きく設定できるのは、必要に応じて十分な補正を行えるようにするためです。すべてのチャンネルの EQ を最大にすると、ミックス全体が不明瞭になります。EQ は控えめに使用し、ノブの右側（ブースト）だけでなく、左側（カット）も活用してください。大幅なブーストやカットを繰り返す場合は、マイクの設置位置を変える、別の種類のマイクやボーカリストを試す、弦を交換する、うがいをするなど、音源側の見直しも検討してください。

EQ 回路は、40 年以上にわたり音響技術分野をリードし、長年にわたって協力関係にある Cal Perkins の設計をベースにしています。この「ネオクラシック」設計は、英国式 EQ サウンドの心地よい音楽的な響きを備えながら、位相変化を最適かつ最小限に抑え、 ± 15 dB のブースト／カットを実現します。つまり、十分な調整範囲を確保しながら、耳に心地よいサウンドが得られます。

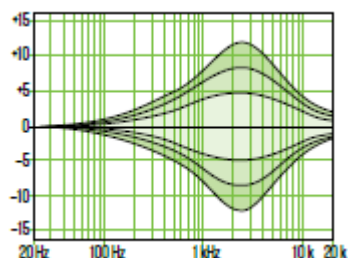
HI EQ ノブ



プヒスを目立ちにくくしたりできます。

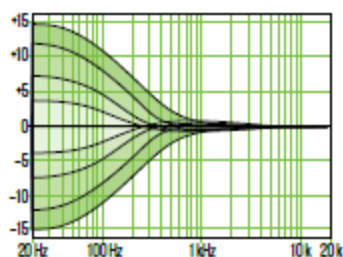
HI EQ は、12 kHz 以上の帯域を最大 15 dB ブーストまたはカットします。中央のクリック位置ではフラット（ブースト／カットなし）になります。ブーストすると、シンバルにきらびやかさを加え、サウンド全体の透明感を高めるほか、キーボード、ボーカル、ギター、ベーコンを焼くような音に輪郭を加えられます。少し下げると、歯擦音を抑えたり、テー

MID EQ ノブ



MID は「ミッドレンジ」の略です。このノブは、2.5 kHz を中心とする帯域を最大 15 dB ブーストまたはカットします。中央のクリック位置ではフラットになります。各サウンドの特徴を決める周波数成分の多くがこの帯域に含まれるため、ミッドレンジ EQ は最も大きな音質変化をもたらすと考えられています。ノブを上げてブーストするだけでなく、下げてカットして、さまざまな効果的な EQ 調整が可能です。

LOW EQ ノブ



LOW EQ は、80 Hz 未満の帯域を最大 15 dB ブーストまたはカットします。中央のクリック位置ではフラットになります。この帯域には、バスドラムやベースギターの迫力、厚みのあるシンセパッチ、極めて低い声の男性ボーカルなどの低域成分が含まれます。

AUX MON ノブ (ProFX12v3+)



各チャンネルの信号の一部を取り出し、メインミックスとは独立したステージモニター用のモニターミックスを作成します。バンドメンバーがステージモニターのミックスに満足するよう、各チャンネルのコントロールを調整してください。

ノブを最小まで下げると信号は出力されません。中央のクリック位置ではユニティゲインとなり、最大まで上げると最大 10 dB のゲインが得られます。

PAN およびチャンネルフェーダーはモニター出力に影響しませんが、その他のチャンネルコントロールはモニター出力に影響します。AUX MON はプリフェーダーです。

モニター出力全体のレベルは、MASTER MON コントロールを使用して調整できます。

チャンネルの AUX MON ノブと MASTER AUX MON ノブは、どちらも緑色です。FX TO MON MASTER ノブを使用すると、内蔵 FX をモニターミックスに加えられます。



上図のとおり、ProFX12v3+には 8 個の AUX MON ノブがあります。ProFX6v3+および ProFX10v3+には AUX MON ノブはありません。

FX ノブ



FX スイッチ (Ch. 1~2) [ProFX6v3+]

このスイッチがオフの場合、ミックスに FX は加わりません。スイッチをオンにすると、そのチャンネルの信号がチャンネルレベルノブ通過後に FX SEND へ送られます。

FX ノブ [ProFX10v3+および ProFX12v3+]

各チャンネルの信号の一部を取り出し、内蔵 FX プロセッサへ送る FX ミックスを作成します。また、FX SEND を経由して外部プロセッサへ信号を送る場合にも使用します。ノブを最小まで下げると信号は出力されません。中央のクリック位置ではユニティゲインとなり、最大まで上げると最大 10 dB のゲインが得られます。

MUTE、チャンネルフェーダー、その他のチャンネルコントロールは FX 出力に影響しますが、PAN は影響しません。FX はポストフェーダーです。

内蔵 FX プロセッサおよび FX SEND 出力端子に送られる FX 信号は、FX ノブが最小位置より上に設定されているすべてのチャンネル信号をミックスしたものです。

FX 全体の出力レベルは、MASTER FX フェーダーで調整できます。

PAN ノブ



ステレオ PAN スイッチ (チャンネル 1~2) [ProFX6v3+] :

このスイッチを押していない状態では、各モノチャンネルの信号がメインミックスの左右に同じレベルで送られます。たとえば、次のように使用します。

- ・モノソースを再生する場合：INPUT 1 に接続したマイクロホンに向かって歌うと、その声が左右両方のスピーカーから出力されます。
 - ・モノソースをオーバーダビングする場合：ヘッドホンを使用して直接モニターしているときは、演奏中のオーバーダビング信号を左右両方の耳で確認できます。
このスイッチを押すと、チャンネル 1 はメインミックスの左側のみに、チャンネル 2 は右側のみに送られます。たとえば、次のように使用します。
 - ・ステレオソースを録音する場合：ステレオマイクロホンをマイク入力に接続するか、ステレオソースをライン入力に接続すると、メイン出力に接続したレコーダーへ左右の信号を個別に録音できます。
- PAN スイッチは、ほかのチャンネルには影響しません。

PAN ノブ [ProFX10v3+および ProFX12v3+]

チャンネル信号を左右の出力へ送る割合を調整します。

PAN コントロールには、「コンスタントラウドネス」と呼ばれる設計が採用されています。チャンネルを左端または右端に定位させた状態から中央へ移動すると、信号が約 3 dB 減衰し、聴感上の音量が一定に保たれます。この補正がない場合、中央に定位させたときの音が大幅に大きく聞こえます。

MUTE スイッチ [ProFX10v3+および ProFX12v3+]



MUTE スイッチは、その名のとおり信号をミュートします。チャンネルの MUTE スイッチをオンにすると、フェーダーを最小まで下げた場合とほぼ同じ結果になります（プリ AUX センドはチャンネルフェーダーの影響を受けませんが、MUTE スイッチの影響を受けます）。チャンネルをミュートしても、CHANNEL INSERT からは引き続き信号が出力されます。MUTE スイッチをオンにすると、スイッチが赤色に点灯します。



ProFX10v3+には 7 個、ProFX12v3+には 8 個の MUTE スイッチがあります。
ProFX6v3+には MUTE スイッチはありません。

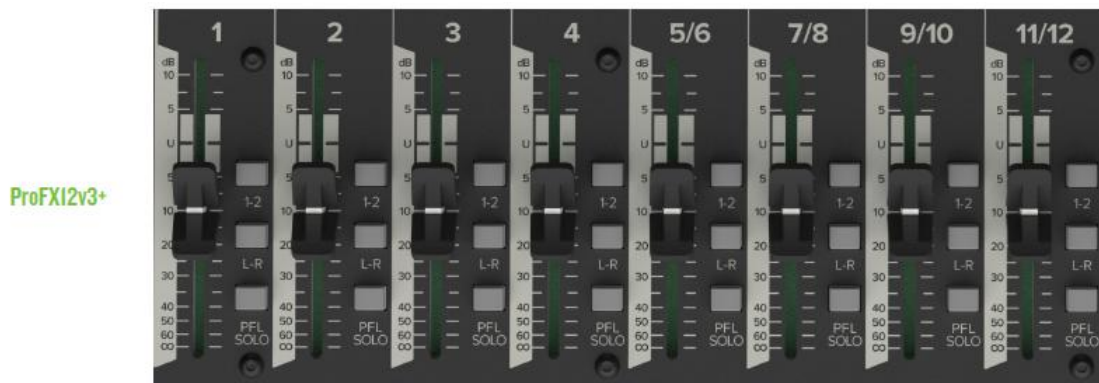
チャンネルレベルノブとフェーダー

ProFX6v3+



ProFX10v3+





チャンネルの信号経路における最後のコントロールで、各チャンネルからメインミックスへ送る信号レベルを調整します。

「U」マークはユニティゲインを示し、信号レベルの増減はありません。フェーダーを最大まで上げると 10 dB のゲインが得られるため、曲の一部をブーストする必要がある場合に使用できます。フェーダーがユニティ付近にあるにもかかわらず、ミックス全体の音量が小さすぎる、または大きすぎる場合は、GAIN コントロールが正しく設定されているか確認してください。



ProFX6v3+および ProFX10v3+の「チャンネルフェーダー」は、実際には「チャンネルノブ」ですが、機能はほぼ同じです。

ASSIGN スイッチ[ProFX12v3+]

各チャンネルフェーダーの横には、チャンネルアサインスイッチがあります。チャンネル信号をサブグループ 1-2 やメイン L-R 出力へ送るために使用します。

たとえば、2 トラックへミックスダウンする場合は、ミックスに含める各チャンネルの MAIN MIX スイッチをオンにします。これにより、各チャンネルの信号がメインミックスバスへ送られます。



上図のとおり、ProFX12v3+では、チャンネル 1～12 のチャンネルフェーダーの右側に ASSIGN スイッチがあります。ProFX6v3+および ProFX10v3+には ASSIGN スイッチはありません。

PFL SOLO スイッチ[ProFX12v3+]

チャンネルの SOLO スイッチをオンにすると、現在選択されている信号がソロ信号に切り替わり、CONTROL ROOM 出力、PHONES 出力、および左側のメーターに送られます。実際に聴くソロ信号の音量は、CR ノブおよび PHONES ノブで調整します。メーターに表示されるソロ信号のレベルは、CR ノブおよび PHONES ノブの影響を受けません。これにより、CONTROL ROOM 出力や PHONES 出力の音量にかかわらず、メーターで実際のチャンネルレベルを確認できます。

PFL は「プリフェーダーリッスン」(EQ 後)の略です。PFL SOLO スイッチをオンにした場合、チャンネルの MUTE スイッチの設定はソロ信号に影響しません。



PFL はフェーダーの手前からチャンネル信号を取り出します。チャンネルフェーダーを「U」(ユニティゲイン)より大幅に下げていても、ソロ信号はその設定の影響を受けず、ユニティゲインの信号がCONTROL ROOM 出力、PHONES 出力、およびメーターへ送られます。急に大きな音が出る場合があるため、注意してください。



上図のとおり、ProFX12v3+では、チャンネル1~12のチャンネルフェーダーの右側に PFL SOLO スイッチがあります。ProFX6v3+および ProFX10v3+には PFL SOLO スイッチはありません。

USB 3-4 スイッチ



このスイッチをオンにすると、対応するチャンネル入力(ProFX6v3+ではチャンネル3/4、ProFX10v3+ではチャンネル7/8、ProFX12v3+ではチャンネル9/10)よりUSBリターンが優先されます。これにより、Spotify®のステレオ再生やDAWの音声など、USB接続からの信号がチャンネルの信号経路へ送られます。ほかの入力信号と同様に、この信号にもEQを適用できるほか、AUXバスへ送る、ほかの信号とミックスする、サブグループやメイン出力へアサインするなどの操作が可能です。



USB 3/4 RETURN スイッチの設定方法やその他のヒントについては、87ページの付録Cを参照してください。

Bluetooth スイッチ



ミキサーでは、1つのチャンネルにつき1系統の入力信号のみ使用できます。ProFXv3+シリーズも同様です。このスイッチをオンにすると、チャンネルがペアリングモードになり、スマートフォンやタブレットなどの Bluetooth 機器からミキサーを検出できるようになります。

Bluetooth をオフにすると、ミキサーはアナログ入力信号を使用します。Bluetooth 接続中は、Bluetooth 信号が使用されます。

ペアリングと接続 : Bluetooth ボタンを数秒間長押ししてください。選択されると、ボタンが青色でゆっくり点滅します。これは、ProFXv3+ミキサーと接続機器がペアリングモードになっているかを示します。

ProFXv3+ミキサーがペアリングモードになっている間に、スマートフォンまたはタブレットで Bluetooth 機器を検索してください。「利用可能なデバイス」一覧に「ProFXv3+」が表示されたら選択します。接続が完了すると、機器側に接続済みと表示され、ミキサーの Bluetooth ボタンが点滅から点灯に変わります。



以前にペアリングした機器は、機器とミキサーの電源が入っていて、通信範囲内にある場合、自動的に再接続されます。



静電気放電 (ESD) の影響により、Bluetooth 接続が切断される場合があります。その場合は、Bluetooth を手動で再接続してください。

FX FOOTSWITCH 端子[ProFX10v3+および ProFX12v3+]



お好みのフットスイッチを接続する TRS フォン端子です。フットスイッチを使用して、内蔵エフェクトを簡単にミュート／ミュート解除できます。1 ボタン式のオン／オフフットスイッチであれば使用できます。

内蔵 FX の MUTE スイッチですでにミュートしている場合、フットスイッチを操作しても効果はありません。

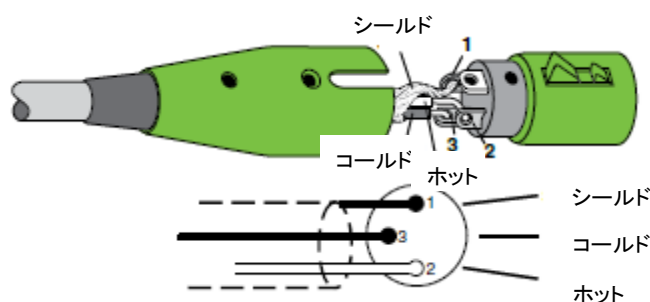
L/R MAIN OUT 端子



MAIN OUT 端子からは、ミキサーの信号経路の最終段にあたるラインレベル信号が出力されます。ここから、ミックス済みのステレオ信号が外部機器へ送られます。メインのパワーアンプ、パワードスピーカー、またはグラフィックイコライザーやコンプレッサー／リミッターなどの直列接続するエフェクトプロセッサの左右入力に接続してください。

オス型 XLR コネクターからはバランスのラインレベル信号が出力されます。AES (Audio Engineering Society) 規格に準拠した配線は次のとおりです。

XLR バランス配線:



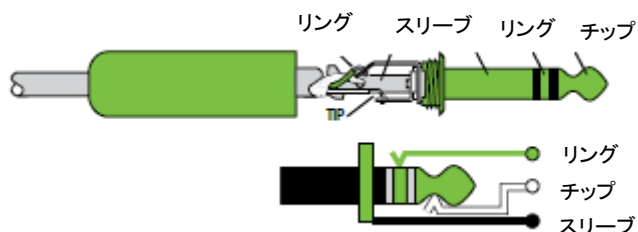
- ピン 1 = シールド (グラウンド)
- ピン 2 = プラス (+/ホット)
- ピン 3 = マイナス (-/コールド)

MAIN OUT 端子は、バランス XLR コネクターに加えて、バランスまたはアンバランス接続の 1/4 インチコネクターにも対応しています。

バランス接続する場合は、1/4 インチ TRS (Tip-Ring-Sleeve) プラグを使用してください。

「TRS」は Tip-Ring-Sleeve の略で、ステレオ 1/4 インチフォン端子／プラグやバランス型フォン端子／プラグに備わる 3 つの接点を示します。TRS 端子およびプラグはバランス信号に使用し、次のように配線します。

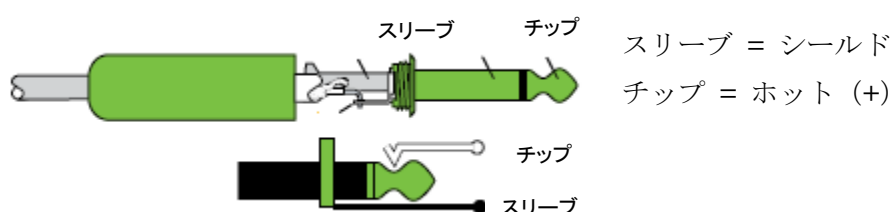
1/4 インチ TRS バランスモノ配線:



- スリーブ = シールド
- チップ = ホット (+)
- リング = コールド (-)

アンバランス接続する場合は、次のように配線した 1/4 インチモノ TS フォンプラグを使用してください。

1/4 インチ TS アンバランスモノ配線:



XLR 出力の信号レベルは、TRS 出力より 6 dB 高くなります。メーターが「0」を示している場合、TRS 出力のレベルは 0 dBu です。

ヘッドホン出力端子

TRS フォン端子からステレオヘッドホンへ信号を出力します。音量は **phones** ノブで調整します。

solo スイッチをオンにすると、ヘッドホンからはソロに設定したチャンネルの音声だけが聞こえます。これにより、各チャンネルの信号をメインミックスに加える前にモニターできます。

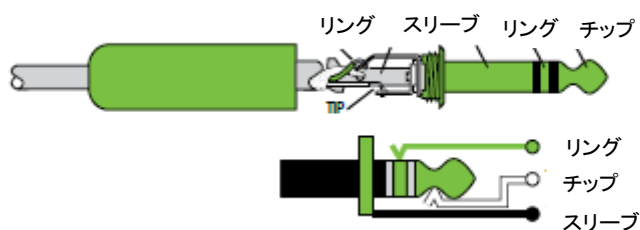
(ヘッドホンに送られるソロ信号は、チャンネルレベルやメインレベルの影響を受けません。そのため、ソロに設定したチャンネルの音量が大きい場合があるので、最初に **phones** レベルを下げてください。)

phones 出力の端子配線は、次の標準仕様に準拠しています。

チップ：左チャンネル

リング：右チャンネル

スリーブ：グラウンド





ヘッドホンアンプは大音量を出力するため、聴力に回復不能な損傷を与えるおそれがあります。ヘッドホンによっては、中程度のレベルでも大きな音量となり、耳に痛みを感じる場合があります。十分に注意してください。ヘッドホンを接続するとき、solo スイッチを押すとき、またはヘッドホンの音量に影響する可能性のある操作を行うときは、必ず **phones** レベルコントロールを一番下まで下げてください。その後、音を注意深く確認しながら、音量をゆっくり上げてください。



「To Phones / Control Room」スイッチがオンの場合、**phones** 端子から出力される信号には、入力信号と USB リターン信号をブレンドしたポストブレンドミックスを使用できます。このスイッチ（および「Blend」ノブ）について詳しくは、42 ページを参照してください。

1/4 インチ CONTROL ROOM 端子[ProFX10v3+、ProFX12v3+]

この 1/4 インチ端子は、通常、コントロールルーム用アンプまたはヘッドホン分配アンプの入力に接続します。

CONTROL ROOM 出力は、その他の用途にも使用できます。音質はメイン出力と同等で、追加のメインミックス出力として使用でき、独立したレベルコントロールも備えています。



ただし、solo スイッチをオンにすると、ミックス信号が中断されるため注意してください。チャンネルの solo スイッチをオンにすると、それまで選択されていた信号の代わりにソロ信号が CONTROL ROOM 出力、**phones** 出力、左右のレベルメーターに送られます。ソロ信号の音量は control room ノブで調整できます。なお、メーターに表示されるソロ信号のレベルは control room ノブの影響を受けません。これは、CONTROL ROOM 出力の音量設定に関係なく、メーターにはチャンネルの実際の信号レベルを表示する必要があるためです。



「To Phones / Control Room」スイッチをオンにすると、CONTROL ROOM 出力から、入力信号と USB リターン信号をブレンドしたポストブレンドミックスを出力できます。このスイッチ（および「Blend」ノブ）について詳しくは、42 ページを参照してください。ProFX6v3+には CONTROL ROOM 出力がないため、「To Phones」スイッチのみを装備しています。

1/4 インチ FX SEND 端子[ProFX10v3+、ProFX12v3+]



この 1/4 インチ TRS ラインレベル出力端子は、リバーブやディレイなどの外部エフェクター (FX) へ信号を送る場合に使用します。この端子からは、内蔵 FX プロセッサへ送られる信号と同じ信号が出力されます。各チャンネルの FX コントロールを最小より上に設定すると、そのチャンネル

の信号がミックスされて出力されます。

(内蔵 FX で処理された信号はこの端子から出力されません。内蔵 FX の処理信号は、内部でメインミックスまたはモニターミックスに加えられます。)

全体の出力レベルは **aux master FX** ノブで調整できます。このノブは、内蔵 FX へ送られる信号のレベルにも影響します。

この出力は「ポストフェーダー」のため、チャンネルフェーダーを操作すると、外部エフェクターへ送られる信号レベルも変化します。

通常、エフェクターで処理した信号は空いているチャンネルに戻します。元の未処理信号 (ドライ) と処理済み信号 (ウェット) を適切にミックスしてください。元のチャンネルフェーダーを操作するとドライ信号とウェット信号の両方が増減し、その比率は一定に保たれます。たとえば、リバーブの音量は元の信号に対して常に同じ比率に保たれます。

1/4 インチ MON SEND 端子[ProFX12v3+]



ステージモニターを使用すると、演奏者はステージ上で自分の演奏を明瞭に確認できます。

モニターミックスの音量は、**aux mon** コントロールで調整できます。各チャンネルの信号の一部が取り出され、1/4 インチ TRS 出力端子から外部

ステージモニターへ送られます。外部アンプで駆動するパッシブタイプのステージモニター、またはアンプを内蔵したパワードステージモニターのいずれも使用できます。

モニター信号は、**aux mon** コントロールを最小より上に設定したすべてのチャンネルをミックスした信号です。たとえば、ボーカルの **Brian** が「自分の声をもう少し大きくして、ベースを少し下げてほしい」と希望する場合は、**Brian** のチャンネルの **aux mon** コントロールを上げ、ベースチャンネルの **aux mon** コントロールを下げます。

全体の出力レベルは **aux master mon** ノブで調整できます。また、この出力とパワードモニターの間に外部グラフィックイコライザーを接続できます。これにより音質を調整し、近くにあるマイクロホンによるハウリングの発生を抑えられます。

モニター出力は、メインミックスフェーダーやチャンネルフェーダーの影響を受けません。そのため、一度設定したモニターミックスと音量は、チャンネルフェーダーやメインミックスフェーダーを操作しても変化しません。この方式を「プリフェーダー」と呼びます。

1/4 インチ SUB OUT 端子[ProFX12v3+]



この 1/4 インチ端子は、通常、マルチトラックレコーダーの入力や、大規模なシステムにおけるサブアンプなどに接続します。

48V ファンタム電源スイッチ



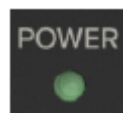
現在の業務用コンデンサーマイクの多くは、48V ファンタム電源を必要とします。ファンタム電源を使用すると、音声信号と同じケーブルを通じて、ミキサーからマイク内部の電子回路へ低電流の DC 電圧を供給できます。（セミプロ用コンデンサーマイクでは、同じ役割を果たす電池を内蔵している場合があります。）「ファンタム」という名称は、外部電源を必要としないダイナミックマイク（Shure SM57/SM58 など）からは、その存在が見えず、影響も与えないことに由来します。

使用するマイクにファンタム電源が必要な場合は、このスイッチを押してください。（マイクを接続する前に、必ずこのスイッチの位置を確認してください。）ファンタム電源がオンになると、対応する LED が赤く点灯します。このスイッチは、すべてのマイクチャンネルの XLR 端子に同時に作用する共通スイッチです。



ファンタム電源がオンの状態では、シングルエンド（アンバランス）マイクやリボンマイクをマイク入力端子に絶対に接続しないでください。また、ファンタム電源がオンの XLR マイク入力端子に楽器の出力を接続しないでください。接続しても安全であるかが明確な場合を除きます。ファンタム電源がオンの状態でマイク入力端子にマイクを接続するときは、必ず **main mix** フェーダーを下げてください。大きなポップノイズがスピーカーから出力されるのを防止できます。

電源 LED

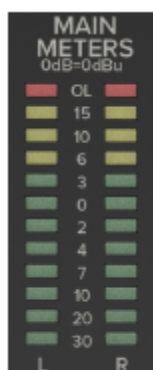


ミキサーの電源を入ると、この LED が緑色に点灯し、電源がオンであることを示します。LED が点灯していれば電源はオンです。点灯していなければ電源はオフです。

LED が点灯しない場合は、電源コードの両端が正しく接続されている、使用する場所の AC 電源が供給されている、および **power** スイッチがオンになっているのを確認してください。

メインメーター

このピークメーターは、12 個の LED を縦に並べた 2 列構成です。信号レベルの範囲を示すため、信号機のように 3 色で表示します。表示範囲は、最下部の -30 から中央の 0、最上部の OL までです。



チャンネルをソロに設定すると [ProFX12v3+]、右側のメーターには何も表示されず、左側のメーターにそのチャンネルのフェーダー前の信号レベルが表示されます。

メーター上の -20 ~ +10 dB の範囲でピークが点滅するように調整すると、良好なミックスが得られます。多くのアンプは約 +10 dBu でクリップし、一部のレコーダーではさらに余裕がありません。実際の使用環境において最良の結果を得るには、ピークが 0 ~ +6 の範囲に収まるようにしてください。ただし、オーディオメーターはレベルをおおよその適正範囲に調整するための目安にすぎません。必要がなければ、メーターを見続ける必要はありません。



ProFX6v3+のメーターは仕様が若干異なります。LED は 8 個のみで、表示範囲は -24 ~ OL です。このモデルでは、メーター上の -12 ~ +8 dB の範囲でピークが点滅するように調整すると、良好なミックスが得られます。

RUDE SOLO LED[ProFX12v3+]



1 つ以上の solo スイッチをオンにすると、この大型 LED が赤く点滅します。これは、CONTROL ROOM 出力やヘッドホンでモニターしている信号が、ソロに設定したチャンネルのみであることを知らせるためのものです。ソロモードになっているのを忘れると、ミキサーに何か問題が発生したと勘違いする場合があります。そのような場合は、RUDE SOLO LED を確認してください。この LED は、ソロモードになっているのを分かりやすく知らせるためのものです。



ProFX6v3+および ProFX10v3+には solo スイッチがないため、RUDE SOLO LED もありません。

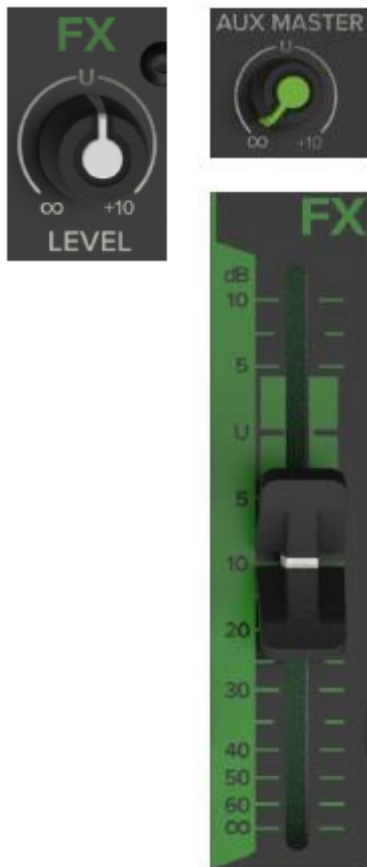
AUX MASTER ノブ[ProFX10v3+、ProFX12v3+]

aux mon および aux FX 信号がそれぞれの出力へ送られる直前の全体レベルを調整します。
FX MASTER の場合は、内蔵 FX へ送られる信号のレベルも調整します。
AUX コントロールは、ステージ上のボーカリストなどからモニターの音量を上げるよう求められた場合に調整するコントロールです。音量が大きすぎると合図された場合は、ノブを下げてください。



図のように、ProFX10v3+には FX MASTER が 1 つ、ProFX12v3+には AUX MASTER と FX MASTER が 1 つずつあります。ProFX6v3+には AUX MASTER はありません。

ProFX10v3+、ProFX12v3+



FX TO MON ノブ[ProFX12v3+]



このノブを使用して、エフェクト信号をモニターへ送ります。モニターにエフェクトを加える場合は、MON コントロールを使用します。MON ノブを時計回りに回しながら、モニターへ送るエフェクト量を徐々に増やしてください。AUX MASTER ノブ（前ページ参照）を使用して、モニターへ送る全体の信号レベルを調整します。ProFX12v3+には、FX TO MON ノブが1つあります。

FX MUTE スイッチ



ProFX6v3+ ProFX10v3+ ProFX12v3+

このスイッチをオンにすると、内蔵 FX プロセッサがミュートされ、エフェクト信号はメインミックスまたはモニターミックスに出力されません。スイッチをオフにすると、内蔵 FX を使用でき、必要に応じてメインミックスやモニターミックスに加えられます。

このスイッチがオフの場合、フットスイッチを使用して内蔵 FX のミュート／ミュート解除を切り替えられます [ProFX6v3+を除くすべての ProFXv3+ミキサー]。

To Phones / Control Room スイッチ



初期設定では、control room 端子と phones 端子から 2 トラック L/R ミックスが出力されます。チャンネルがソロに設定されている場合は、ソロ信号が出力されます。このスイッチを押すと、その信号を遮断し、代わりにブレンドした信号をモニターできます。



ProFX6v3+には control room 出力がないため、「To Phones」スイッチのみが装備されています。

Control Room ノブ[ProFX10v3+および ProFX12v3+]



このノブを使用して、control room 出力の音量を ∞ （オフ）から最大ゲイン（MAX）まで調整します。新しいソースを選択または追加する前に、必ずこのノブを反時計回りいっぱいに戻し、音量を完全に下げてください。



ProFX6v3+には control room 出力がないため、control room ノブも装備されていません。

Phones ノブ



このノブを使用して、Phones 出力の音量を ∞ （オフ）から最大ゲイン（MAX）まで調整します。新しいソースを選択または追加する前に、必ずこのノブを反時計回りいっぱいに戻し、音量を完全に下げてください。



ヘッドホンアンプは大音量を出力するため、聴力に回復不能な損傷を与えるおそれがあります。ヘッドホンによっては、中程度のレベルでも耳に痛みを感じるほどの大音量になる場合があります。十分に注意してください。ヘッドホンを接続するとき、Solo スイッチを押すとき、またはヘッドホンの音量に影響する可能性のある操作を行うときは、必ず Phones レベルコントロールを一番下まで下げてください。その後、音を注意深く確認しながら、音量をゆっくり上げてください。

Blend ノブ



隣接する To Phones / Control Room スイッチをオンにすると、このノブで、すべての入力信号（1/8 インチ入力を除く）と USB 1-2 Return 信号のバランスを調整し、Phones 出力および Control Room 出力へ送れます。さらに、このミックスは遅延なくモニターできます。

録音済みのトラックを再生しながらオーバーダビングする場合などに、このノブを使用します。

ノブの位置（L、C、R）：

・左いっぱい

入力信号：最大音量

USB Return：音量なし

- ・中央
入力信号と USB Return : 同じ音量
- ・右いっぱい
入力信号 : 音量なし
USB Return : 最大音量

FX ノブ／フェーダー



ProFX6v3+



ProFX10v3+



ProFX12v3+

ステレオ信号は、この FX フェーダー（ProFX6v3+および ProFX10v3+では FX ノブ）を通過した後、main mix フェーダーへ送られます。この信号にはエフェクト処理後の「ウェット」信号が含まれ、各チャンネルのエフェクト処理前の「ドライ」信号とミックスされます。一番上まで上げると 10 dB の追加ゲインが得られます。「U」の位置がユニティゲインで、一番下まで下げるとオフになります。

FX to Sub スイッチ[ProFX12v3+]

メインミックスに加えて、サブグループにも FX 信号を送りたい場合は、1-2 スイッチをオンにしてください。FX 信号がサブグループ 1-2 へ送られます。このスイッチは、上図の ProFX12v3+の FX フェーダー右下付近にあります。

Sub 1-2 フェーダー[ProFX12v3+]



このフェーダーは、SUB OUT 端子に送る信号のレベルを調整します。

サブグループにアサインされ、ミュートされておらず、レベルが最小になっていないすべてのチャンネルの信号が SUB OUT 端子から出力されます。

フェーダーを一番下まで下げるとサブ信号は出力されません。「U」の位置ではユニティゲインとなり、一番上まで上げると 10 dB のゲインが加わります。

サブフェーダーはサブ 1 と 2 を 1 本のフェーダーで操作するステレオペアとして機能するため、左右のバランスを簡単に維持できます。

Sub 1-2 Assign スイッチ[ProFX12v3+]

サブグループの一般的な使い方の 1 つは、複数のチャンネルをまとめ、メインミックスフェーダーへ送る際のマスターフェーダーとして使用する方法です。

たとえば、5 つのチャンネルを使用してドラムキットにマイクを設置し、ドラム全体の音量を簡単に調整したい場合を考えてみましょう。この操作を 5 本の指で同時に行う必要はありません。各チャンネルのメインミックスへのアサインを解除し、サブ 1-2 にアサインします。次に、上図の ProFX12v3+ のサブ 1-2 フェーダーに示す、フェーダー右下付近の Main Mix L-R スイッチをオンにします。これにより、ミックス中はいつでも、サブ 1-2 フェーダー 1 本でドラムミックス全体のレベルを調整できます。

Sub 1-2 Mute スイッチ[ProFX12v3+]

このスイッチをオンにするとサブグループ 1-2 がミュートされ、その出力はメインミックスまたはモニターミックスに送られません。このスイッチがオフの場合、サブグループのミュートは解除され、必要に応じてメインミックスやモニターミックスに加えられます。

このスイッチは、上図の ProFX12v3+ のサブ 1-2 フェーダーに示すように、サブ 1-2 フェーダーのすぐ上にあります。

Main Mix ノブ／フェーダー



ProFX6v3+



ProFX10v3+



ProFX12v3+

このステレオフィューダーでは、XLR 端子および 1/4 インチのメインラインレベル出力端子に送るメインミックス信号のレベルを調整できます。

観客に送る音量を自在に調整できます。メーターをよく確認して過負荷を防ぎ、実際の音量にも注意しながら、適切に調整してください。

フェーダーを一番下まで下げると、メインミックス信号は出力されません。「U」の位置ではユニティゲインとなり、一番上まで上げると 10 dB のゲインが加わります。通常、この追加ゲインが必要になることはありませんが、いざというときに使用できます。このフェーダーはステ

レオ仕様のため、メインミックスの左右両方を同じように調整します。曲の終わりでゆっくりフェードアウトするときや、バンド演奏の途中で素早く音量を下げるときに最適です。

このコントロールは、AUX/MON SEND または FX SEND の出力には影響しません。



左図のように、ProFX6v3+および ProFX10v3+の「Main Mix Fader」は、実際には「Main Mix Knob」です。ただし、どちらも同様に機能します。

Main Mute／Break スイッチ

この重要な「休憩用」スイッチを使用すると、バンドの休憩中に、すべてのマイクロホン入力とラインレベル入力から MAIN OUT、CR OUT、および PHONES OUT への信号をすばやくミュートできます。これにより、誰かが、休憩中にステージへ乱入して音声を流すのを防止できます。

MONITOR SEND および FX SEND には影響しません。システムから音が出ない場合は、まずこのスイッチの状態を確認してください。

ProFX6v3+ : チャンネルがミュートされているのを示すため、隣接する BREAK LED が点灯します。

このスイッチは、上図のように Main Mix レベルノブ／フェーダーのすぐ上にあります。

GIGFX+エフェクトエンジン



プリセットディスプレイ

プリセットディスプレイは、ProFXv3+シリーズミキサーの中でも特に重要な機能の1つです。FX（およびFX EQ）、プリセット、その他のパラメーターなど、さまざまな情報を表示します。各機能の詳細については、以降の説明を参照してください。

Studio Command Control ノブ

このノブを上下に回してパラメーターを変更し、押して選択します。

ディスプレイにはFX（およびFX EQ）、プリセット、その他のパラメーターが表示されますが、これらの項目を選択して変更するには、ミキサーのプッシュ式ロータリーエンコーダーを使用します。

変更するパラメーターがハイライト表示されるまでノブを回し、エンコーダーを押してから設定を変更します。詳しい操作方法については、この後の説明を参照してください。

Back ボタン

Back 矢印ボタンは、FX リストと現在選択しているエフェクトの間を移動するためのナビゲーションツールとして使用します。

Number	Effect
1	DELAY
2	ECHO
3	SLAPBACK
4	HALL REVERB
5	ROOM REVERB
6	PLATE REVERB
7	CHORUS 1
8	CHORUS 2
9	FLANGER
10	DELAY + REVERB
11	DELAY + CHORUS
12	REVERB + CHORUS

Back ボタンを長押しすると、12 種類のエフェクトが 6 項目ずつ 2 列に表示されます。この画面で、Studio Command Control Knob を回して 12 種類のプリセットエフェクトから 1 つを選択します。前述のとおり、各プリセットエフェクトは好みに合わせて自由に変更、微調整できます。詳しくは、次のページ以降を参照してください。使用可能なエフェクトプリセットは左の表に示され、現在選択しているエフェクトプリセットはディスプレイに表示されます。一度に選択

できるプリセットは 1 つだけです。各プリセットの詳細については、次のページ以降で説明します。

工場出荷時設定へのリセット

ProFXv3+ミキサーを工場出荷時設定にリセットすると、ほとんどのパラメーターが初期設定に戻ります。これには、すべての FX パラメーターと保存済みプリセットが含まれます。この操作を実行すると元に戻せません。

ミキサーを工場出荷時設定に戻すには、ディスプレイに Mackie Running Man が表示されるまで、Studio Command Control Knob と Back ボタンを同時に長押しします。



工場出荷時設定へのリセットと FX EQ リセット（58 ページ参照）は異なる操作であり、リセットされる設定も異なります。

FX セクション

ProFXv3+の FX エンジン是非常に高性能で、多くの機能を搭載しています。

12 種類のエフェクトから選択でき、それぞれ好みに合わせて自由に調整、微調整できます。詳しい説明に入る前に、12 種類のエフェクトタイプについて、各プリセットの説明と使用例をまとめた表を確認しましょう。

エフェクトは、3 種類ずつ次の 4 つのグループに分かれています。

- ・エフェクト 1～3：ディレイ／仮想ノブの色＝青
- ・エフェクト 4～6：リバーブ／仮想ノブの色＝赤
- ・エフェクト 7～9：モジュレーション／仮想ノブの色＝紫
- ・エフェクト 10～12：複合エフェクト／仮想ノブの色＝黄

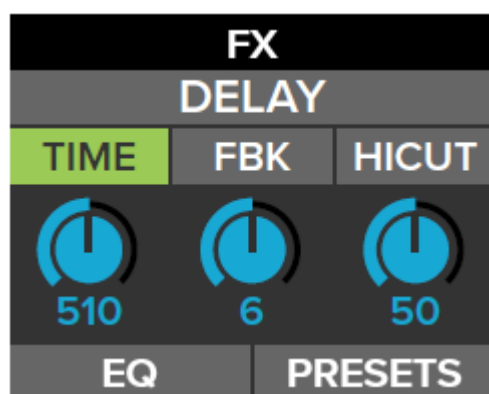
番号	タイトル	説明	使用例
1	Delay ディレイ	TIME 設定で指定した一定の間隔で、ソース信号を遅らせて繰り返すエフェクトです。FEEDBACK コントロールで、繰り返しの回数を増減します。	ディレイ音をミックスの中で際立たせたい、ロックなどの明るくアップテンポな音楽に適しています。
2	Echo エコー	ソース信号を 2 回繰り返すディレイエフェクトです。峡谷の壁に反射する声のような、二重の反響音が特徴です。反響のタイミングと回数は、TIME および FEEDBACK 設定で調整します。	Slap Back Echo と呼ばれます。音量を上げずに、ボーカルやギターをミックスの中で際立たせる場合に使用します。
3	Slapback スラップバック	原音に対して、1 回または 2 回の比較的短いディレイを加えます。FEEDBACK 設定による繰り返しは最小限に抑えられます。	一般にボーカルのダブリング効果や、1950 年代のロックンロールで聴かれるような余韻の長いドラムサウンドを再現するために使用します。
4	Hall Reverb ホールリバーブ	広々とした大きな空間、長いプリディレイ、鮮やかな響きが特徴のリバーブです。	アコースティック楽器やボーカルに豊かな響きを加えます。ソロ演奏から本格的なオーケ

			ストラや合唱まで、幅広く使用できます。
5	Room Reverb ルーム リバーブ	中規模の部屋の響きを再現するプリセットです。低中域を適度に強調し、温かみのある音を作ります。	楽器やボーカルに、レコーディングスタジオのような音響空間の響きを加える場合に適しています。スネア、ホーンセクション、アコースティックギターなどに使用できます。
6	Plate Reverb プレート リバーブ	金属板を使用して残響を生成する、ビンテージの機械式リバーブを再現します。多くの初期反射音があり、プリディレイがないのが特徴です。	タンバリン、ハンドクラップ、バックボーカルなどに長いサステインを加える場合に最適です。
7、8	Chorus 1 / Chorus 2 コーラス 1 / コーラス 2	柔らかく幻想的に揺れ動くエフェクトです。音に厚みを加えたり、特定のサウンドをミックスの中で際立たせたりする場合に使用します。	エレクトリックギター、アコースティックギター、ベースの音を豊かにする場合や、ボーカル、特にグループハーモニーや合唱にドラマチックな効果を加える場合に最適です。
9	Flanger フランジャー	FEEDBACK を伴うモジュレーションディレイです。コーラスより短いディレイタイムを使用し、フランジャー特有のうねるようなサウンドを作ります。	Heart の楽曲「Barracuda」のエレクトリックリズムギターを参考にしてください。
10	Delay + Reverb ディレイ + リバーブ	ディレイかリバーブのどちらかを選ぶ必要はありません。プリセット 10 では、両方のエフェクトを組み合わせ使用できます。	オルタナティブロック、シューゲイザー、エクスペリメンタルロックなどのバンドに適しています。
11	Delay + Chorus	ディレイかコーラスのどちらかを選ぶ必要はありません。プリセット 11 で	Pink Floyd のギタリスト David Gilmour は、

	ディレイ + コーラス	は、両方のエフェクトを組み合わせで使用できます。	機材設定の中でこのエフェクトをよく使用しています。
12	Reverb + Chorus リバーブ + コーラス	リバーブかコーラスのどちらかを選ぶ必要はありません。プリセット 12 では、両方のエフェクトを組み合わせで使用できます。	音に豊かな厚みを加えるプリセットです。コーラスは、わずかにピッチをずらした信号を原音に重ねます。リバーブは、広さの異なる会場内を音波が反射するような響きを再現します。

Delay(ディレイ)

プリセットディスプレイに、ディレイエフェクトの現在のパラメーターが表示されます。

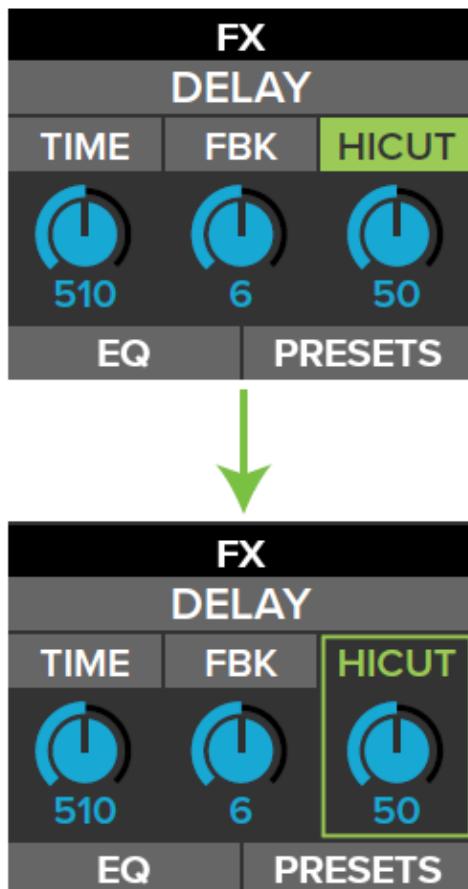


Delay では、ディレイエフェクトを調整できます。ProFXv3+シリーズミキサーには、Delay、Echo、Slapback の 3 種類のディレイが用意されています。

各ディレイでは、TIME、FEEDBACK、HI-CUT のパラメーターを変更できます。また、各エフェクトには EQ セクションがあり、PRESETS を使用してカスタム FX を保存、読み込みできます。

Studio Command Control Knob を回し、仮想ノブの上にある 3 つの項目を切り替えます。TIME、FEEDBACK、HI-CUT のいずれかがハイライト表示されたら、ノブを押してパラメーターを選択します。

下の最初の画面では、HI-CUT がハイライト表示されています。2 番目の画面では、Studio Command Control Knob を押して HI-CUT を選択しているため、パラメーター名の文字と対応する枠が緑色に変わっています。



選択したパラメーターの値を調整するには、ノブをもう一度回します。目的の設定値になったら、ノブを再度押して確定します。

TIME：現在のディレイタイムをミリ秒単位で設定します。設定範囲は 20～1000 ms です。

FEEDBACK：ディレイ信号をディレイセクションの入力へ戻す量を調整し、反響音を繰り返します。信号が入力へ戻されるたびにディレイ音は小さくなるため、反響音が無限に続きません。設定範囲は 0～13 です。

HI-CUT：ディレイ信号にローパスフィルターを適用し、出力信号の高域を減衰させます。設定範囲は 0～100 です。

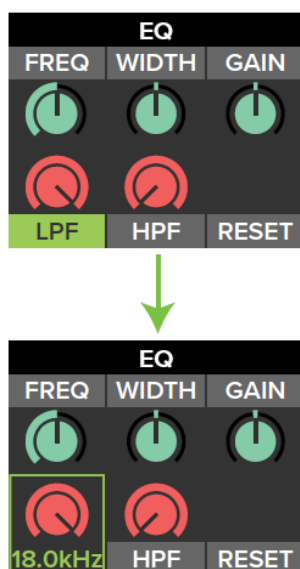
FX EQ

次に、EQ セクションを確認します。前述の操作と同様に、EQ がハイライト表示されるまでノブを回し、ノブを押して EQ 画面を表示します。

変更できる EQ パラメーターには、周波数 (FREQUENCY)、帯域幅 (WIDTH)、ゲイン (GAIN)、LPF、HPF があります。この EQ は、現在選択しているエフェクトに適用されます。

前述の操作と同様に、Studio Command Control Knob を回し、仮想ノブの上にある 5 つの項目を切り替えます。FREQUENCY、WIDTH、GAIN、LPF、HPF のいずれかがハイライト表示されたら、ノブを押してパラメーターを選択します。

下の最初の画面では、LPF がハイライト表示されています。2 番目の画面では、Studio Command Control Knob を押して LPF を選択しているため、パラメーター値と対応する枠が緑色に変わっています。



選択したパラメーターの値を調整するには、ノブをもう一度回します。目的の設定値になったら、ノブを再度押して確定します。

FREQUENCY : 選択しているエフェクトの周波数を設定します。設定範囲は 400 Hz～16.0 kHz です。

WIDTH (別名「Q」) : フィルターの帯域幅を調整します。Q 値は無次元量であり、単位はありません。一部のイコライザーでは、このパラメーターをオクターブ単位の比帯域幅で表します。Q 値と比帯域幅は反比例し、Q 値が高いほど比帯域幅は狭くなります。対応する Q 値と比帯域幅は次のとおりです。Q の設定範囲は 0.5～3 です。

Q	Bandwidth (Octave)
0.7	2
1.414	1
2.145	2/3
2.871	1/2

GAIN：選択しているエフェクトに適用するゲイン量を設定します。設定範囲は-8 dB～+8 dB です。

LPF：ローパスフィルターを使用して高域をカットします。設定範囲は 6.0～18.0 kHz です。

HPF：ハイパスフィルターを使用して低域をカットします。設定範囲は 80～600 Hz です。

「PRESETS」と「RESET」の説明へ進む前に、Delay、Echo、Slapback の各パラメーターと EQ 設定を簡単に確認しておきましょう。

ディレイパラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	増減幅
TIME ディレイタイム	20 ms	1000 ms	363 ms	±約 10 ms
FEEDBACK フィードバック	0	13	2	±1
HI-CUT ハイカット	0	100	78	±1
EQ	—	—	—	—
FREQUENCY (周波数)	400 Hz	16.0 kHz	7.9 kHz	可変
WIDTH (Q/ 帯域幅)	0.5	3	0.5	±0.1
GAIN ゲイン	-8 dB	+8 dB	+1 dB	±1 dB
LPF	6.0 kHz	18.0 kHz	6.0 kHz	±0.1～0.2 kHz
HPF	80 Hz	600 Hz	120 Hz	±1～10 Hz

Echo パラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	増減幅
TIME ディレイタイム	140 ms	1000 ms	553 ms	±約 10 ms
FEEDBACK フィードバック	0	17	6	±1
HI-CUT ハイカット	0	100	77	±1
EQ	–	–	–	–
FREQUENCY 周波数	400 Hz	16.0 kHz	1.0 kHz	可変
WIDTH Q／帯域幅	0.5	3	2	±0.1
GAIN ゲイン	–8 dB	+8 dB	±0 dB	±1 dB
LPF	6.0 kHz	18.0 kHz	7.0 kHz	±0.1～0.2 kHz
HPF	80 Hz	600 Hz	100 Hz	±1～10 Hz

Slapback パラメーターと設定値

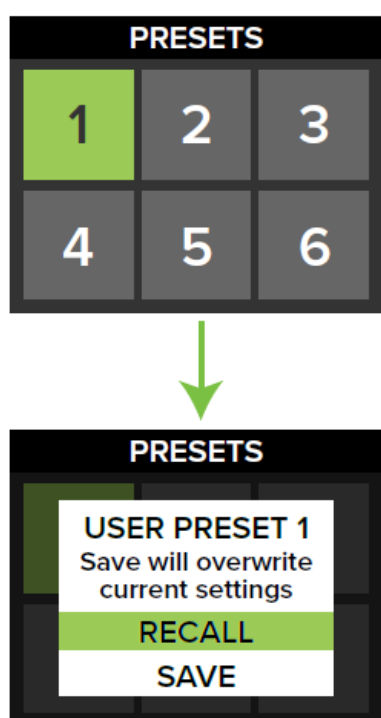
パラメーター	最小値	最大値	初期値	増減幅
TIME ディレイタイム	80 ms	400 ms	96 ms	±3～4 ms
FEEDBACK フィードバック	0	2	0	±1
HI-CUT ハイカット	0	100	100	±1
EQ	–	–	–	–
FREQUENCY (周波数)	400 Hz	16.0 kHz	1.0 kHz	可変
WIDTH Q／帯域幅	0.5	3	2	±0.1
GAIN ゲイン	–8 dB	+8 dB	±0 dB	±1 dB
LPF	6.0 kHz	18.0 kHz	12.1 kHz	±0.1～0.2 kHz
HPF	80 Hz	600 Hz	80 Hz	±1～10 Hz

FX プリセット

プリセットセクションでは、最大 6 種類の設定をメモリーに保存し、後から呼び出せます。
電源を入れるたびにパラメーターを設定し直す必要はありません。

これまでと同様に、まず「Presets」がハイライト表示されるまで Studio Command Control Knob を回します（下の 1 つ目の画面）。

次にノブを回して 6 つのプリセットから選択し、ノブを押して確定します（下の 2 つ目の画面）。



ノブを回すと「Recall」と「Save」が切り替わり、ノブを押すと、現在ハイライト表示されている項目が選択されます。



Save : 現在の設定を該当するプリセットに保存する場合に選択します。
新しい設定を保存すると、現在保存されている設定は上書きされます。

Recall : 該当するプリセットの設定を呼び出す場合に選択します。

FX EQ リセット

数ページ前に、FX EQ セクションについて説明しました。このセクションでは、周波数、幅、ゲイン、LPF、HPF の各パラメーターを変更できます。さらに、画面右下にある 6 つ目の項目「Reset」も選択できます。



「Reset」がハイライト表示されたら、コントロールノブを押すと、すべての EQ 設定がリセットされます。設定を初期状態からやり直す際に便利です。

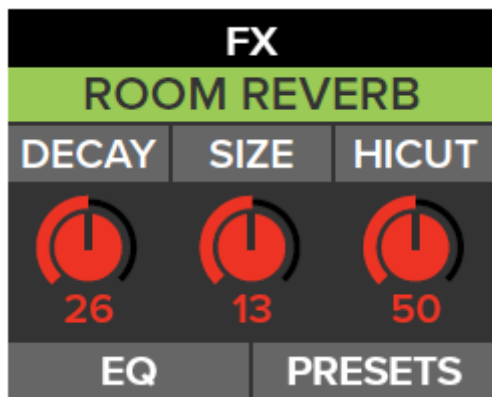
FX EQ をリセットすると、各パラメーターは次の値に設定されます。

- Frequency : 1.0 kHz
- Width : 2.0
- Gain : -10 dB
- LPF : 18.0 kHz
- HPF : 80 Hz



FX EQ のリセットと工場出荷時設定（47 ページ参照）は異なる操作であり、リセット後の設定内容も異なります。

エフェクトの選択方法と、各パラメーターを好みの値に調整する方法を理解したところで、残りのエフェクトについて説明します。各エフェクトの設定項目、最小値、最大値、初期値を、3 種類のリバーブ（Hall、Room、Plate）から順に説明します。



Decay：リバーブの減衰時間を調整します。設定範囲は、選択したリバーブによって異なります。

Size：リバーブの残響量（「部屋の広さ」）を調整します。

設定範囲は選択したリバーブによって異なります。0 に設定するとリバーブはかからず、ノブを時計回りいっぱいに戻すとリバーブが最大になります。

Hi Cut：遅延信号にローパスフィルターを適用し、出力信号の高域を減衰させます。

設定範囲は 0～100 です。

Hall リバーブパラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Decay 減衰時間	0	60	15	±1
Size 空間サイズ	0	15	12	±1
Hi Cut ハイカット	0	100	0	±1
EQ イコライザー	－	－	－	－
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	1.0 kHz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2	±0.1
Gain ゲイン	－8 dB	+8 dB	+0 dB	±1 dB
LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	8.7 kHz	± 0.1 ～ 0.2 kHz

HPF (ハイパスフィルター)	80 Hz	600 Hz	132 Hz	±1~10 Hz
-----------------	-------	--------	--------	----------

Room リバーブパラメーターと設定値

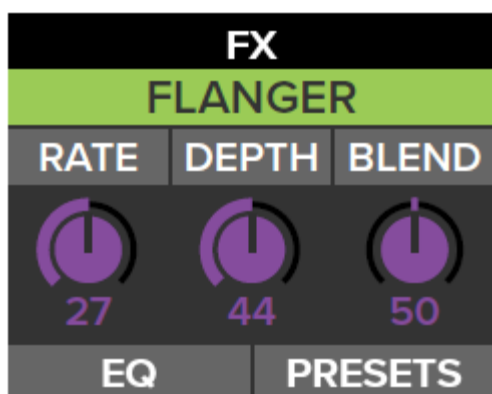
パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Decay 減衰時間	0	52	3	±1
Size 空間サイズ	0	25	12	±1
Hi Cut ハイカット	0	100	0	±1
EQ イコライザー	－	－	－	－
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	1.0 kHz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2	±0.1
Gain ゲイン	-8 dB	+8 dB	+0 dB	±1 dB
LPF ローパス フィルタ	6.0 kHz	18.0 kHz	13.3 kHz	± 0.1 ~ 0.2 kHz
HPF ハイパス フィルタ	80 Hz	600 Hz	190 Hz	±1~10 Hz

Plate リバーブパラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Decay 減衰時間	0	65	35	±1
Size 空間サイズ	0	40	35	±1
Hi Cut ハイカット	0	100	20	±1
EQ イコライザー	－	－	－	－
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	400 Hz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2.5	±0.1
Gain ゲイン	-8 dB	+8 dB	+8 dB	±1 dB

LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	8.2 kHz	± 0.1 ~ 0.2 kHz
HPF ハイパス フィルター	80 Hz	600 Hz	80 Hz	±1~10 Hz

次に、3 種類のモジュレーションエフェクト（Chorus 1、Chorus 2、Flanger）について説明します。



Rate：ディレイモジュレーションの速度を調整します。設定範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

Depth：ディレイモジュレーションの深さを 1～10 の範囲で調整します。設定範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

Blend：レベルコントロールとして機能し、原音とエフェクト音をミックスする際のエフェクト音の割合を調整します。

Chorus 1 パラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Rate 速度	0	54	12	±1
Depth 深さ	16	73	28	±1
Blend ミックス比	0	100	59	±1
EQ イコライザー	－	－	－	－
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	1.0 kHz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2	±0.1
Gain ゲイン	－8 dB	+8 dB	+0 dB	±1 dB

LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	10.0 kHz	± 0.1 ~ 0.2 kHz
HPF ハイパス フィルター	80 Hz	600 Hz	120 Hz	±1~10 Hz

Chorus 2パラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Rate 速度	16	93	16	±1
Depth 深さ	30	150	36	±1
Blend ミックス比	0	100	100	±1
EQ イコライザー	–	–	–	–
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	3.0 kHz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	3	±0.1
Gain ゲイン	–8 dB	+8 dB	–8 dB	±1 dB
LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	8.7 kHz	± 0.1 ~ 0.2 kHz
HPF ハイパス フィルター	80 Hz	600 Hz	334 Hz	±1~10 Hz

Flanger パラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Rate 速度	0	100	10	±1
Depth 深さ	10	150	62	±1
Blend ミックス比	0	100	100	±1
EQ イコライザー	–	–	–	–
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	7.6 kHz	可変

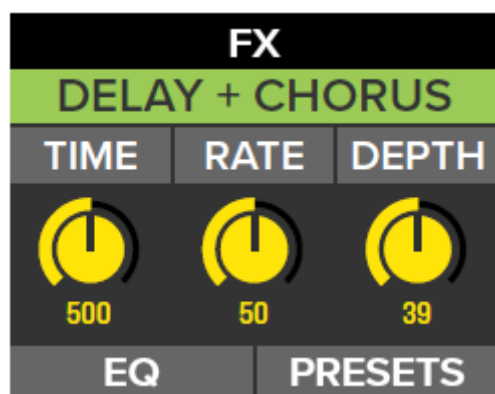
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2	±0.1
Gain ゲイン	-8 dB	+8 dB	-1 dB	±1 dB
LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	18.0 kHz	± 0.1 ~ 0.2 kHz
HPF ハイパス フィルター	80 Hz	600 Hz	90 Hz	±1~10 Hz



Rate (Hz) と Depth (ms) によって、選択したエフェクトの周期的な変調が決まります。

ただし、Chorus 1、Chorus 2、Flanger の Rate と Depth は、実際にプロセッサが使用する Hz 値または ms 値を 10 倍した数値で表示されます。実際の値を確認するには、画面上のノブの下に表示されている数値の小数点を 1 桁左へ移動します（または 0.1 を掛けます）。

たとえば、Rate が 37 と表示されている場合、実際の値は 3.7 Hz です。



最後に、3 種類の複合エフェクト（Delay + Reverb、Delay + Chorus、Reverb + Chorus）について説明します。

Time：ディレイタイムを 20～1000 ms の範囲で調整します。

Rate：モジュレーションの速度を調整します。設定範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

Depth：ディレイモジュレーションの深さを調整します。設定範囲は、選択したエフェクトによって異なります。

Decay：リバーブの減衰時間を 0～60 の範囲で調整します。

Size：リバーブの残響量（「部屋の広さ」）を 0～15 の範囲で調整します。0 に設定するとリバーブはかからず、15 に設定するとリバーブが最大になります。

Delay + Reverb パラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Time デイレイ タイム	20 ms	1000 ms	196 ms	±9～10 ms
Rate 速度	16	73	26	±1
Depth 深さ	0	100	8	±1
EQ イコライザー	–	–	–	–
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	6.8 kHz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2.1	±0.1
Gain ゲイン	–8 dB	+8 dB	+2 dB	±1 dB
LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	12.6 kHz	± 0.1 ～ 0.2 kHz
HPF ハイパスフィ ルター	80 Hz	600 Hz	88 Hz	±1～10 Hz

Delay + Chorus パラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Time デイレイ タイム	20 ms	1000 ms	196 ms	±9～10 ms
Rate 速度	0	73	12	±1
Depth 深さ	16	100	40	±1
EQ イコライザー	–	–	–	–
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	1.0 kHz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2	±0.1
Gain ゲイン	–8 dB	+8 dB	+0 dB	±1 dB
LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	6.0 kHz	± 0.1 ～ 0.2 kHz

HPF ハイパスフィルター	80 Hz	600 Hz	80 Hz	±1~10 Hz
---------------	-------	--------	-------	----------

Reverb + Chorus パラメーターと設定値

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Decay 減衰時間	0	60	10	±1
Size 空間サイズ	0	15	6	±1
Rate 速度	0	54	33	±1
EQ イコライザー	—	—	—	—
Frequency 周波数	400 Hz	16.0 kHz	415 Hz	可変
Width (Q) 帯域幅 (Q)	0.5	3	2	±0.1
Gain ゲイン	-8 dB	+8 dB	-5 dB	±1 dB
LPF ローパス フィルター	6.0 kHz	18.0 kHz	10.0 kHz	± 0.1 ~ 0.2 kHz
HPF ハイパス フィルター	80 Hz	600 Hz	108 Hz	±1~10 Hz

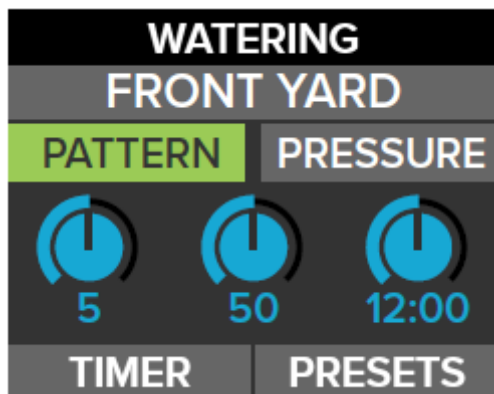


Rate (Hz) と Depth (ms) によって、選択したエフェクトの周期的な変調が決まります。

ただし、2 種類のコーラス・モジュレーションエフェクトの Rate と Depth は、実際にプロセッサが使用する Hz 値または ms 値を 10 倍した数値で表示されます。実際の値を確認するには、画面上のノブの下に表示されている数値の小数点を 1 桁左へ移動します（または 0.1 を掛けます）。

たとえば、Rate が 37 と表示されている場合、実際の値は 3.7 Hz です。

.....そして、ProFXv3+ミキサーシリーズで個人的に一番気に入っている機能が「Watering」です。そうです。21 世紀のテクノロジーによって、ミキサーにさらに多くの機能を「詰め込む」ことが可能になりました。



WATERING

ProFXv3+ミキサーでは、さまざまなものに水をまくような効果が利用できます。まず、信号を出力端子に接続します。メイン出力、コントロールルーム出力、サブ出力、モニターセンド、FX センド、ヘッドホン端子などに接続できます。ひねって回すだけで簡単に接続できます。

Pattern : 散水パターンを 1～10 から設定します。各番号に対応する散水パターンを以下に示します。

番号	パターン
1	SHOWER (シャワー)
2	JET (ジェット)
3	FLAT (フラット)
4	CENTER (センター)
5	CONE (コーン)
6	FULL (フル)
7	MIST (ミスト)
8	STREAM (ストリーム)
9	VERTICAL (垂直)
10	1/2 VERTICAL (半垂直)

Pressure : 水量を 0 (Off) ～100 (Max) の範囲で調整します。

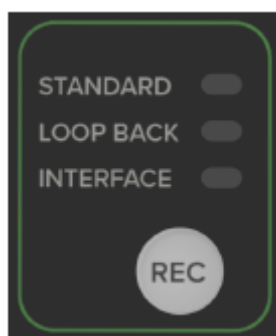
数値を大きくするほど、水圧が高くなります。

Timer : WATERING を作動させる時刻と作動時間を設定します。

時刻は 24 時間表示で、初期設定は正午です。

パラメーター	最小値	最大値	初期値	調整単位
Pattern 散水パターン	1 SHOWER	10 1/2 VERTICAL	5 CONE	±1
Pressure 水圧	0	100	50	±1
Timer タイマー	－	－	12:00 pm 正午	±1 分

レコーディングモード



ProFXv3+シリーズミキサーは、レコーディングを行うユーザーの使いやすさを考慮して設計されています。REC ボタンを押すと、3 種類のレコーディングモードが切り替わります。現在選択されているモードは緑色に点灯します。

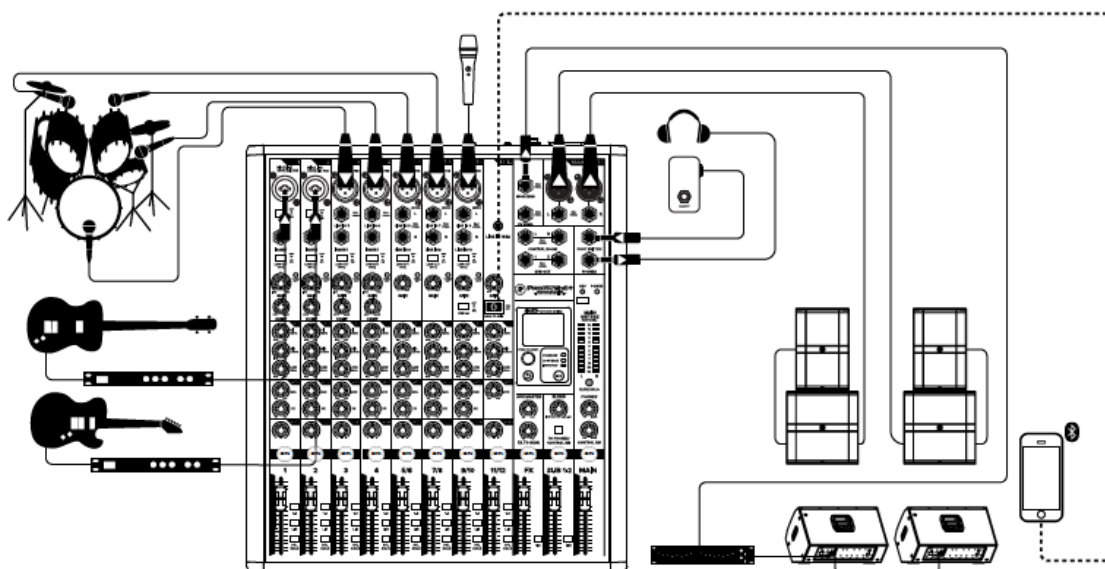
各モードの機能は次のとおりです。

Standard: GigFX+エフェクトや音質調整用 EQ を含むメインミックス全体をコンピューターに録音します。

Loopback: コンピューターの音声を録音に含めます。ゲーム配信や、バックトラックを再生しながら演奏する場合などに便利です。

Interface: チャンネル 1 と 2 の未加工の音声を、エフェクトをかけずにコンピューターへ直接送ります。可能な限りクリアな録音が行えます。

接続図 > 一般的なライブサウンドシステム

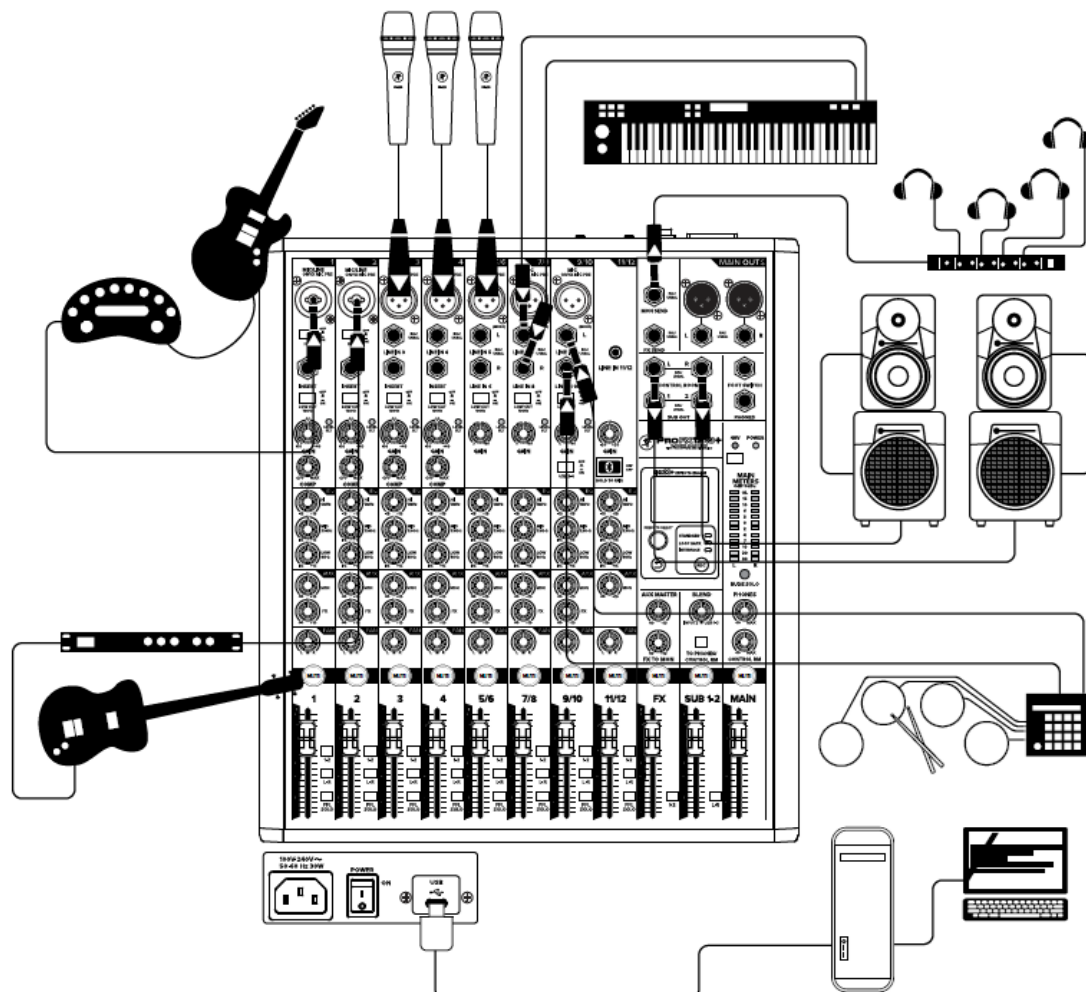


この図では、ギターとベースをそれぞれモノラルエフェクトプロセッサを経由して、チャンネル 1 と 2 のラインレベル入力に接続しています。両方のチャンネルで **Hi-Z** スイッチをオンにします。ドラムキットの各マイクには、ミキサーの次の 4 チャンネルを使用します。さらに次のチャンネルには、リードボーカル用のマイクロホン接続します。スマートフォンは Bluetooth を使用して、ミキサーの最終チャンネルに接続します。

DRM18S パワードサブウーファースを左右の MAIN 出力に接続し、さらに 2 台の SRM215 V-Class スピーカーへ接続して PA システムを構成します。また、2 台の SRM212 V-Class スピーカーをステージモニターとして設置し、グラフィック EQ を経由してミキサーの AUX (MONITOR) 出力に接続します。各チャンネルの AUX MON コントロールを使用すると、目的に応じたステージモニターミックスを作成できます。ヘッドホンはモニタリングに使用します。また、フットスイッチを使用して内蔵エフェクトのミュート/ミュート解除を切り替えられます。

図には示していませんが、ミキサー背面の USB ポートにノートパソコンを接続できます。これにより、演奏を DAW に録音できるほか、コンピューターからの音声をメインミックスで再生できます。

接続図 > 一般的なレコーディングシステム



前の接続図と同様に、ギターとベースをそれぞれモノラルエフェクトプロセッサを経由して、チャンネル1と2のラインレベル入力に接続します。両方のチャンネルでHi-Zスイッチをオンにします。マイクロホンはチャンネル3～5/6、キーボードはステレオチャンネル7/8、電子ドラムキットはステレオチャンネル9/10に接続します。

演奏を正確にモニタリングできるように、MRシリーズのパワードリファレンスサブウーファーとモニタースピーカーを、左右のCONTROL ROOM出力に接続します。ヘッドホンアンプを経由してAUX (MONITOR) 出力に接続したヘッドホンは、演奏者がレコーディング時のモニタリングに使用できます。

デスクトップコンピューターをUSBポートに接続すると、ミックスをDAWに録音できるほか、DAWから音声を再生できます。

付録 A：サービス情報

トラブルシューティング

Mackie 製品に問題があると思われる場合は、以下のトラブルシューティングを確認し、症状を特定してください。弊社ウェブサイト (www.mackie.com) の Support セクションを参照するか、テクニカルサポートにお問い合わせください。製品を修理に送らずに問題を解決できる場合があります。

以下に、各種の問題を解決するための確認事項を示します。ここに記載されていない問題にも役立つ場合があります。

レベル設定手順

音が出ないなど、音声に関する問題が発生した場合は、レベル設定手順 (21 ページ) に従い、システム内のすべての音量コントロールが適切に調整されているのを確認してください。ユーザー自身で修理できる部品はありません。以下の確認を行っても問題が解決しない場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

電源が入らない

- ・電源コードが接続されていますか。AC コンセントに通電しているのを確認してください (テスターや照明器具などを使用して確認します)。
- ・電源スイッチがオンになっていますか。オフになっている場合は、オンにしてください。
- ・電源コードが電源ソケットに確実に差し込まれ、AC コンセントの奥までしっかり差し込まれているかを確認してください。
- ・上面パネルの **POWER LED** が点灯していますか。点灯していない場合は、AC コンセントに通電しているかを確認してください。点灯している場合は、後述の「音が出ない」を参照してください。
- ・内部の AC ラインヒューズが切れている可能性があります。この部品はユーザー自身では交換できません。AC ラインヒューズが切れていると思われる場合は、次の「修理」を参照してください。
- ・周辺地域全体が停電していませんか。停電している場合は、地域の電力会社にお問い合わせください。

音が出ない

- ・すべての接続に問題がないかを確認してください。接続ケーブルが正常に機能し、両端に確実に接続されているかを確認します。問題があると思われるチャンネルとまったく同じ設定にした別のチャンネルへ、同じ信号源を接続して確認してください。また、スピーカーの入力に十分な信号を送れるように、**MASTER** レベルを適切に上げてください。
- ・入力ソースのレベルノブが最小になっていませんか。システム内のすべての音量コントロールが適切に調整されているかを確認してください。レベル設定用の **LED** やメーターを確認し、ミキサーが信号を受信しているか確認します。
- ・入力ソースがミュートされていないか、またはプロセッサーループが有効になっていないかを確認してください。該当する設定が見つかった場合は、スイッチを解除する前にレベルを下げてください。
- ・**MAIN** レベルが適切に上がっていますか。
- ・外部機器の不具合を確認するため、**MONITOR OUT** など、ほかのラインレベル出力に接続されている機器をすべて取り外してください。
- ・アンプに過大な信号を入力していないかを確認してください。スピーカーの平均負荷インピーダンスが、アンプの対応可能な最小インピーダンスを下回っていないかを確認します。また、スピーカーの配線も確認してください。
- ・信号源の電源が入っていますか。また、正常に動作していますか。

ノイズ／ハムノイズ

- ・**EQ** が適切なレベルに設定されていますか。
- ・**AUX RETURN** が最大レベルに設定されていませんか。
- ・アンバランスケーブルを使用していませんか。バランスケーブルに交換し、問題が解消するか確認してください。
- ・問題があると思われるチャンネルとまったく同じ設定にした別のチャンネルへ、同じ信号源を接続して確認してください。
- ・入力端子に接続されているケーブルを外してみてください。ノイズが消える場合は、ミキサーの問題ではなく、グラウンドループが発生している可能性があります。
- ・入力ゲインを 1 チャンネルずつ下げてください。ノイズが消えた場合は、その入力または接続機器が原因です。接続機器を取り外してから入力ゲインを元に戻し、ノイズが消えていれば、その接続機器に原因があります。
- ・マイクロホンにファンタム電源が必要ではありませんか。
- ・可能な限り、すべての音響機器の電源コードを共通のアースを使用するコンセントに接続してください。各コンセントから共通アースまでの距離は、できるだけ短くしてください。

・信号ケーブルが AC ケーブル、電源トランス、その他の電磁干渉を発生させる機器の近くを通っていないかを確認してください。

・ミキサーと同じ AC 回路に、照明用ディマーやその他の SCR 方式の機器が接続されていませんか。AC ラインフィルターを使用するか、別の AC 回路に接続してください。

その他の問題

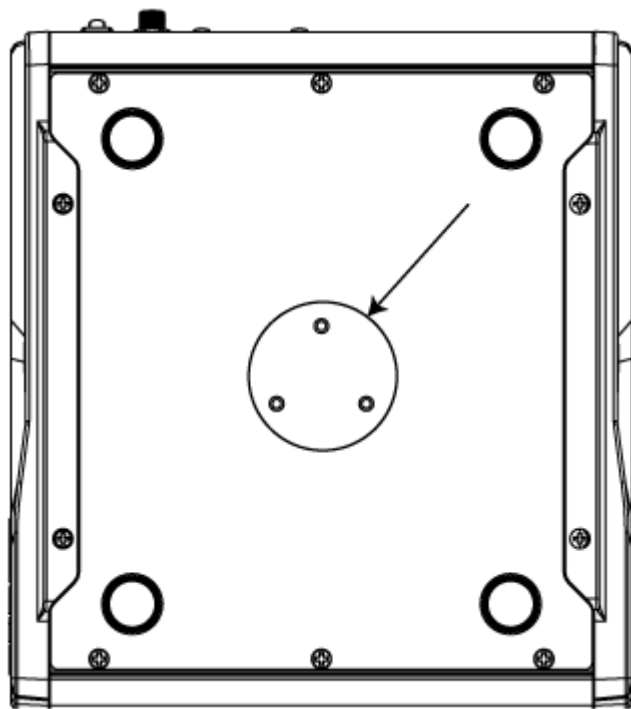
・ Bluetooth に問題がある場合

- Bluetooth 機器を再起動してください。電源を完全に切ってから、再度電源を入れます。
- ミキサーを再起動してください。再起動するだけで問題が解決する場合があります。

・ Windows コンピューターに Mackie USB ドライバーをインストールする必要がある場合 mackie.com にアクセスし、「USB Driver Installation Instructions」というファイルを参照してください。

マイクスタンド

ProFX6v3+の底面パネルには、オプションのマイクスタンドアダプターを取り付けるための、ネジ山の無い穴が3か所あります。このアダプターを使用すると、ミキサーを標準的なマイクスタンドに取り付け、用途に合わせて高さや角度を調整できます。



1. 楽器店などで販売されている Atlas AD-11B マイクスタンドアダプターを用意してください (Atlas Sound 製)。
2. 6-32 × 1/4 インチの三葉形ねじを 3 本使用して、アダプターをミキサーの底面に固定してください (下図参照)。



1/4 インチより長いねじは使用しないでください。内部の回路基板を損傷するおそれがあります。

1/4 インチより短いねじは使用しないでください。アダプターをミキサーに確実に固定できません。

付録 B : 技術情報

仕様

ノイズ特性

等価入力ノイズ (EIN)

(ソースインピーダンス 150 Ω 、20 Hz～20 kHz)

マイク入力から INSERT SEND 出力、最大ゲイン : -126 dBu

残留出力ノイズ

全出力、MASTER レベルオフ、全チャンネルレベルオフ : -95 dBu

全出力、MASTER レベルをユニティ、1 チャンネルのレベルをユニティ : -80 dBu

周波数特性

マイク入力から各出力

(ゲインをユニティ、+0 dB/-1 dB) : 20 Hz～30 kHz

歪み率 (THD+N)

(測定帯域幅 : 22 Hz～80 kHz)

マイク入力から MAIN OUT (出力レベル+4 dBu) : 0.02%未満

減衰量およびクロストーク

隣接入力間 (1 kHz) : -90 dB

入力-出力間 (1 kHz) : -80 dB

フェーダーオフ (1 kHz) : -75 dB

MUTE スイッチ/BREAK スイッチによるミュート (1 kHz) : -90 dB

同相信号除去比 (CMRR)

マイク入力から MAIN OUT、最大ゲイン、1 kHz : 70 dB

最大レベル

全入力 : +22 dBu

MAIN MIX XLR 出力 :	+28 dBu
その他すべての出力 :	+22 dBu

インピーダンス

Mic 入力 :	3.3 k Ω
チャンネルインサートリターン :	10 k Ω
その他すべての入力 :	20 k Ω 以上
Phones 出力 :	25 Ω
その他すべての出力 :	アンバランス 120 Ω バランス 240 Ω

イコライザー

ProFX6v3+

Low :	± 15 dB (80 Hz)
High :	± 15 dB (12 kHz)
Low Cut Filter :	18 dB/octave (100 Hz)

ProFX10v3+ ・ ProFX12v3+

Low :	± 15 dB (80 Hz)
Mid :	± 15 dB (2.5 kHz)
High :	± 15 dB (12 kHz)
Low Cut Filter :	18 dB/octave (100 Hz)

最大電圧ゲイン(EQフラット)

マイク入力チャンネルから...

Insert Output :	60 dB
1/4" Main Output :	80 dB
XLR Main Output :	86 dB
1/4" Sub Output :	80 dB
Aux Output (Pre-Fader) :	80 dB
Aux Output (Post-Fader) :	90 dB
FX Send :	90 dB
FX Send [ProFX10v3] :	80 dB
USB Output :	70 dB

モノ・ライン入力チャンネルから...

Insert Output :	40 dB
1/4" Main Output :	60 dB
XLR Main Output :	66 dB
1/4" Sub Output :	60 dB
Aux Output (Pre-Fader) :	60 dB
Aux Output (Post-Fader) :	70 dB
FX Send :	70 dB
FX Send [ProFX10v3] :	60 dB
USB Output :	50 dB

ステレオ・ライン入力から...

1/4" Main Output :	20 dB
XLR Main Output :	26 dB
1/4" Sub Output :	20 dB
Aux Output (Pre-Fader) :	20 dB
Aux Output (Post-Fader) :	30 dB
FX Send :	30 dB
FX Send [ProFX10v3] :	20 dB
USB Output :	10 dB

1/8" Input から...

1/4" Main Output :	40 dB
XLR Main Output :	46 dB
1/4" Sub Output :	40 dB
Aux Output (Pre-Fader) :	40 dB
Aux Output (Post-Fader) :	50 dB
FX Send :	50 dB
FX Send [ProFX10v3] :	40 dB
USB Output :	30 dB

USB Input から...

XLR Main Output :	46 dB
-------------------	-------

デジタルエフェクト

プリセット数：

24

メーター

Main L/R Mix

ProFX6v3+ -各 8 セグメント×2 列

OL、+14、+8、+4、0 (0 dBu) 、-4、-12、-24

ProFX10v3+および ProFX12v3+ -各 12 セグメント×2 列

OL、+15、+10、+6、+3、0 (0 dBu) 、-2、-4、-7、-10、-20、-30

USB

フォーマット：

USB 2.0

I/O：

ステレオ入力×1、ステレオ出力×2

A/D/A：

24 bit、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz、192 kHz

ファンタム電源

すべての Mic チャンネルに 48 VDC を同時供給

電源要件

電源コネクタ

ProFX6v3+・ProFX10v3+：

12 VDC、2 A、クラス I ケーブル直結型ウォールマウントアダプター [出力]

100 VAC～240 VAC、50～60 Hz、0.8 A [入力]

ProFX12v3+：

3 ピン IEC 電源コード、100 VAC～240 VAC、50～60 Hz

動作温度：0～40 °C / 32～104 °F

寸法

外形寸法（高さ×幅×奥行）：

ProFX6v3+：2.9×7.5×8.4 in / 74×191×213 mm

ProFX10v3+：3.3×10.7×11.9 in / 84×272×302 mm

ProFX12v3+：4.0×13.0×14.8 in / 102×330×376 mm

質量:

ProFX6v3+ :	2.6 lb / 1.2 kg
ProFX10v3+ :	4.9 lb / 2.2 kg
ProFX12v3+ :	7.9 lb / 3.6 kg

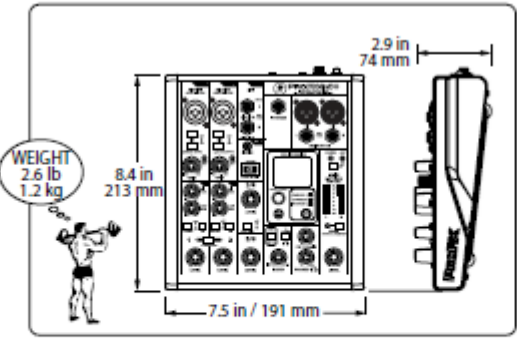
オプション

ProFX6v3+キャリーバッグ :	P/N 2051719
ProFX10v3+キャリーバッグ :	P/N 2051720
ProFX10v3+ダストカバー :	P/N 2051726
ProFX12v3+キャリーバッグ :	P/N 2051721
ProFX12v3+ダストカバー :	P/N 2051727
ProFX12v3+ラックイヤーキット :	P/N 2051623

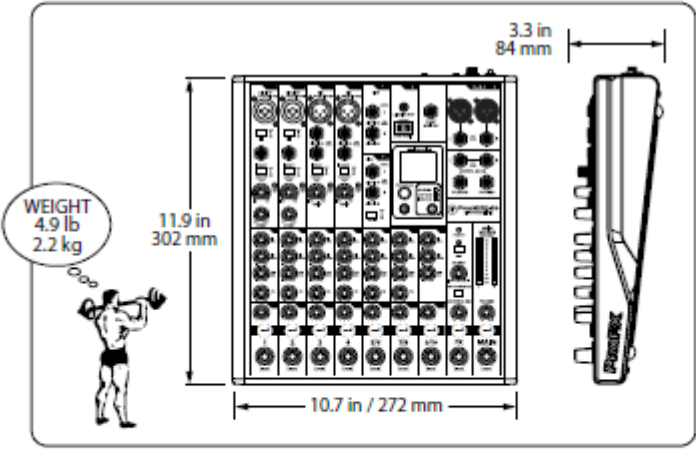
製品情報

部品番号、改訂、日付 :	SW1430、Rev A、2024 年 1 月
--------------	-------------------------

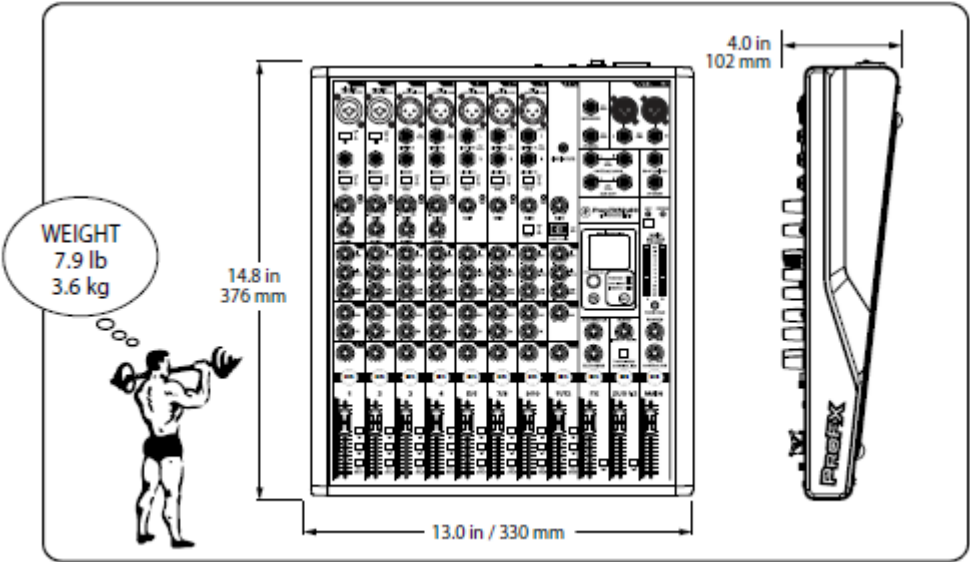
ProFX6v3+寸法



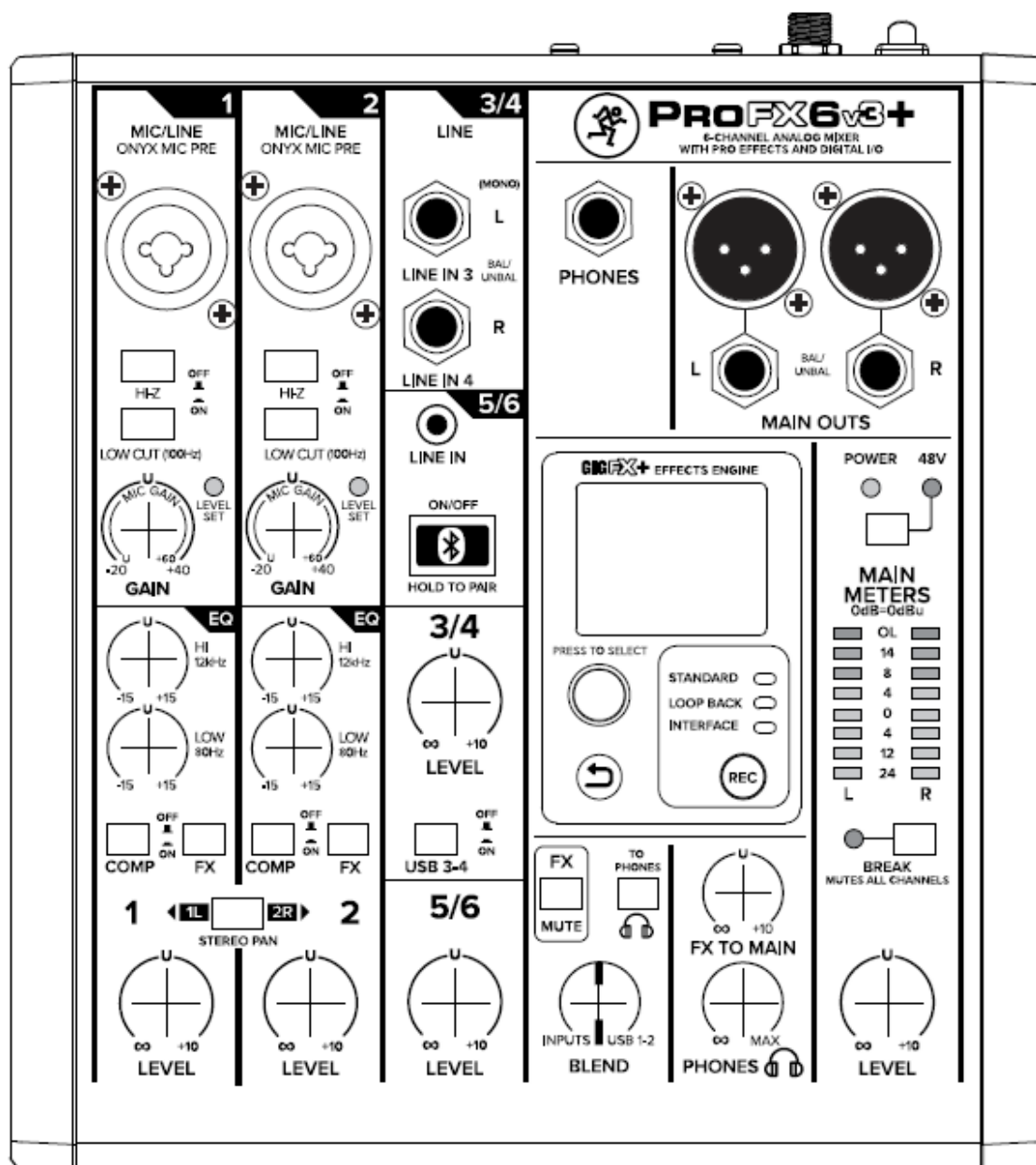
ProFX10v3+寸法



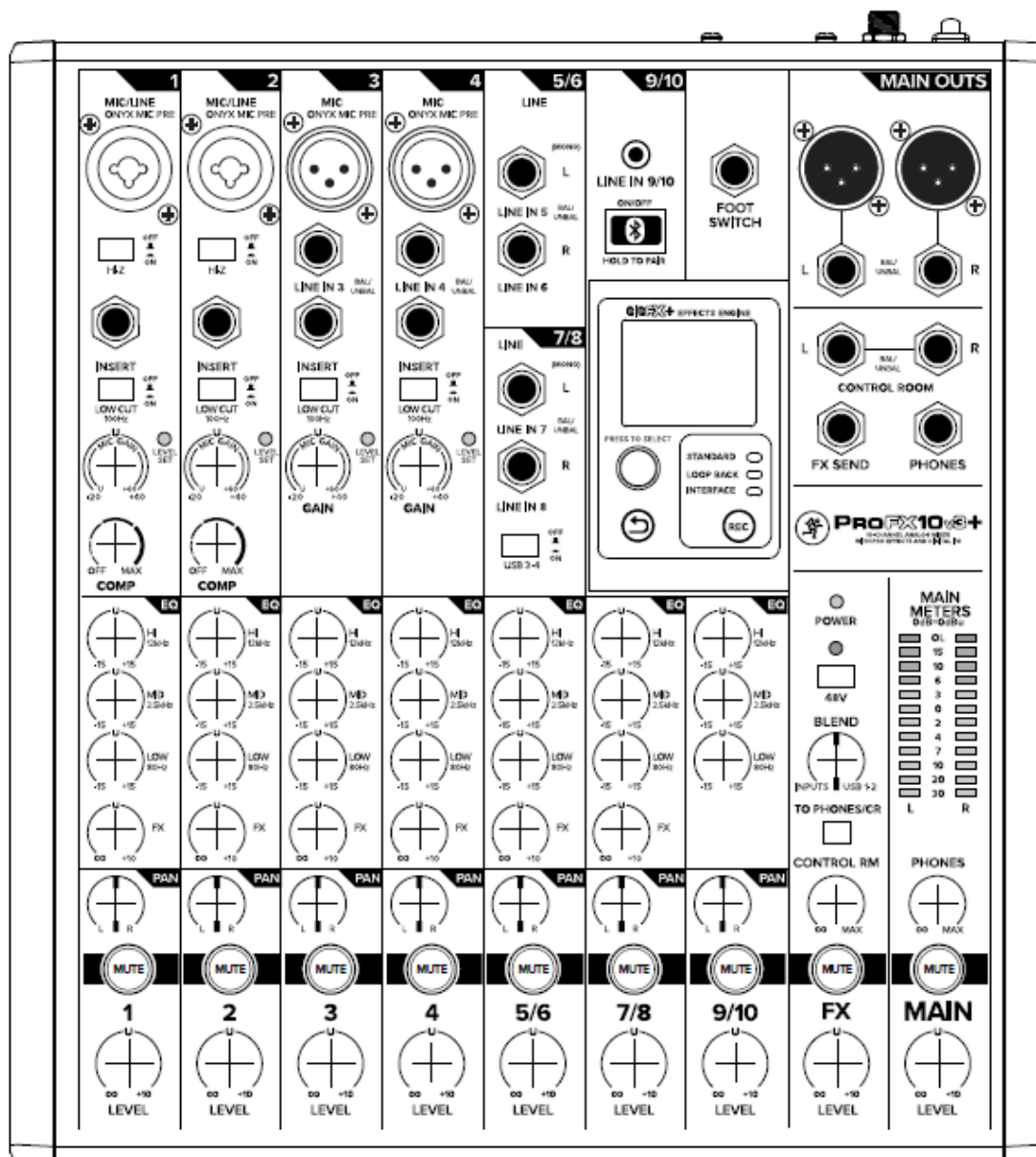
ProFX12v3+寸法



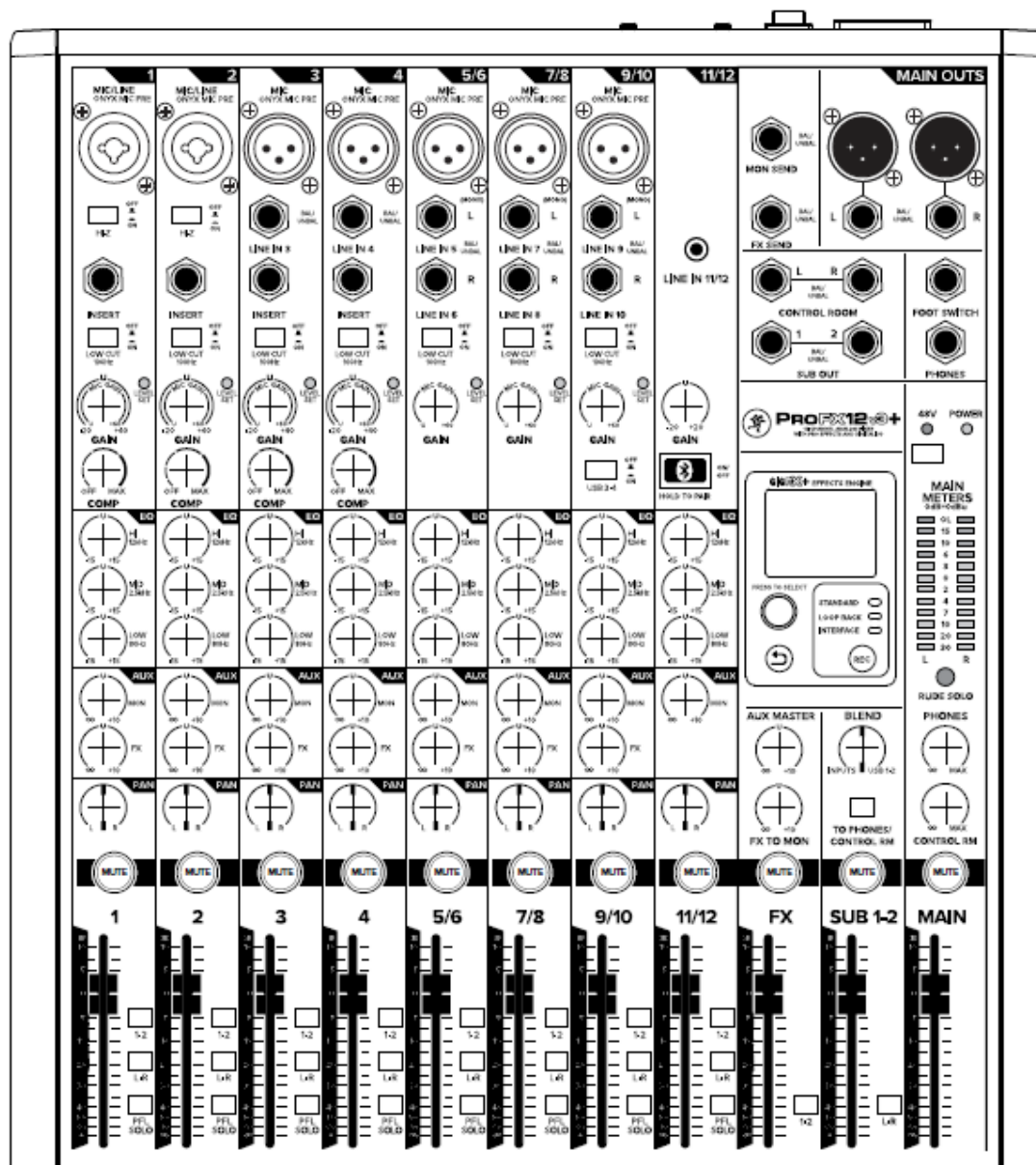
ProFX6v3+ トラックシート



ProFX10v3+ トラックシート



ProFX12v3+ トラックシート



付録 C : USB 3/4 リターンの設定

はじめに

ProFXv3+ミキサーでは、コンピューターからの音声を USB 1/2 Blend Mix または 3/4 Main Mix に送れます。USB 1/2 は録音時のオーバーダビングに適しており、3/4 は通常、バックキングトラック、ストリーミング、ゲーム音声などに使用します。

コンピューターに接続した場合、ProFXv3+の初期設定は USB 1/2 です。USB 3/4 に変更するには、コンピューター側の設定を変更する必要があります。ここでは、システムの音声設定を使用する Windows および Mac の基本的な設定方法について説明します。



DAW や一部のストリーミングアプリケーションには、システム設定よりも優先される独自の設定があります。その場合は、各 DAW またはアプリの設定変更方法について、付属のマニュアルを確認してください。

Windows

1. Mackie のウェブサイトから USB ドライバーをダウンロードします。
2. インストール手順に従ってドライバーをインストールします。
3. タスクバーにあるスピーカーアイコンを右クリックします。
4. Sound Settings を選択します。
5. Choose Your Output Device から、ドロップダウンメニューの ProFXv3+ 3-4 を選択します。
6. ミキサーの最後から 2 番目のチャンネルにある USB 3/4 ボタンが押されているかを確認します。
7. ProFX12v3+ミキサーでは、フェーダーの横にある LR ルーティングボタンを押します。これにより、信号がメインミックスに送られます。
8. チャンネルフェーダーをユニティ位置まで上げてから、メインミックスフェーダーをゆっくりと上げます。

メインメーターが点灯し、メイン出力に接続した機器からコンピューターの音声が聞こえれば、設定は完了です。

Mac

Mac ではドライバーをダウンロードする必要はありません。ただし、macOS 上の一部の設定を変更する必要があります。

1. Spotlight 検索 (Command+スペースバー) を使用して、Audio MIDI Setup アプリを開きます。
2. デバイスを右クリックし、Use This Device For Sound Input および Use This Device For Sound Output の両方に ProFXv3+ミキサーを選択します。
3. Configure Speakers ボタンを選択し、Stereo に設定されているかを確認します。
4. Left と Right をそれぞれ Analog 3 と Analog 4 に変更し、Apply をクリックします。
5. ミキサーの最後から 2 番目のチャンネルにある USB 3/4 ボタンが押されているかを確認します。
6. ProFX12v3+ミキサーでは、フェーダーの横にある LR ルーティングボタンを押します。これにより、信号がメインミックスに送られます。
7. チャンネルフェーダーをユニティ位置まで上げてから、メインミックスフェーダーをゆっくりと上げます。

メインメーターが点灯し、メイン出力に接続した機器からコンピューターの音声が聞こえれば、設定は完了です。